KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

文庫8 A 39 6
東洋文庫
重文

大槻文庫

榕木先生隨筆巻之十九

○磐前日誌

○フリュクト　バーレ　ストイフメール

梅は滋育蕃息彩末の義なり　シヨメール　D（ダ）の部

ダーデルボーム　羅甸パルヽ・又パルヽヨル・又パルヽダ

ツジナリ（ツジナリ）ヘラ・此物枕棉琉求産クロ

トイフ　此樹雌雄二種アリ雌ハ花と実を結ぶ雄ハ花

ありても実かし唯フリュクトバーレストイフメールを蔵

す有（タモ）ちて是を雌花と唱へ雄花と雌花ハ斯の

ごとくせされハ実を生ずるなりなしたとへ庶務の

実生もるとも是を蒔てハ生育せるとなし叶彩ハ

風雨日々毎ねる雌花の結果なるなり　雄花と

特118
90
(6)

雌木と雄木と遠く隔つと花の違ひ一つ二つ有る中樹多く生ずる地の土人は二月頃なるあり雄木の頂梢より開き花の充ちゝるブルームシケリデム花の義を摘て弄ひ上の上は蕚に垂れ蕚も雌花の蕚を結ぶを進め助ケ為ると又セイプレスボーム此樹三種あり花開ク扁柏なり第一種花と中樹二様の花を生ず花雄と雌と有り雄は小卵圏形の花穂なりて生ストイフメール花頭はあを仏く雌花の蕚なる入れ歩く春月実は結ばしめ出れすりして小にして圏き鱗屑様のケーゲル実形の此を実を生し熟すれは仁核を収む至核扁まして稜角を為す中説世話は必ずる所

有り葉も弁へる人もあるや翁は始て見あせし

○

已巳己

正字通　已蛇　巳ハヤムハナハヤメ　己ノレツチノト　己ノ字ハオノレツチノト。レノアガル　コレソ己ニノロレハヤムナリ

字典　已オノレ　已ヤム止也　已三月上巳

太歳在巳曰屠維ハナハヤメ太也スデニ過事詞辞

玉篇　已キノレ身　已ツチノト　已ツヅ　已ミ

○

者　紳書

者テヘハといハは五音相通の義こ歌は恋ハ中てふといふハ恋といハこゝろこゝろこゝとコと籠メて通あり美物は中説なる

あらはトイレバといふ義なれ但しトイレバの仮名にて通言
ハスストアレバといふこうあるべきか
秀頼 全

○

一壬辰の春きく大島伯州のあかり抱ひし者は平田
甚兵衛といふものあり甚兵は豊前の中津の小笠原
修理亮長政に仕へ嘉吉門といへる者なり長
崎家亡ひし時浪人となりしが去年大阪の去崎の事
行となりしかどもしめつのつとめ此の先祖は播州茨木
の城主なる茨木弾正といひて秀頼の臣にて大坂夏
陣すでにおはんと見えし時近臣おお縁に織田を乗
て逃れ出ずるの時その体なむ〳〵入まいらせ薪
す（きやうなくして赤裸なり）ひうせて薪をも身と
すとも藁莽の流なるこしらへして力鼎の陣の

うしろの塵埃すつきはなす秀頼は去元の七寸五分
ありしかを身をそへて人もし見つけを自殺あるべき
の中なることなくして川口の多を流れ出でしるかまて
中度せしてをあるけめ加藤肥後守の手船なるのせて
船底を二重にしてこれを加へこれを二重にて偽
をせしに結局七人ありしかうこれしるまけ失せしの加
藤の船なるへ入りなるし時は茨木弾正の妻森氏を侍女田
表八郎左衛門一人の名は彼是は彼是結局人偽を二重
人の見あやまめて此を加へ知れを見しうと二重にして
その底なるかへしこれを事なくして法上なるして福富の
使者船なるのうつりして肥後なるつきなる事九自
者なとやすす五郎のあき人の山望なる引こまりしやう

また日人の信も厚く政治にあつかりしが、その子孫の
時の帝なりしを思ひて都（みやこ）おぐしたりて
自高房の妻として女子男子一人ありしが
男は忠房、弟は第九房といひ肥後守右房の家
断絶せし時、その家老の者、球磨の金一家を自高房
（ひとへにけりやうして）細川氏を給ふ事、細川の信
もて吉日帝古賀門、彼忠房を主の（ごとく）高として
その後の世の代り古賀門の出れば、又その子いかなる
者なるや、肥後の家人伊集院武弘といひし第九房
を薩摩へ召のぼせ、第九武弘と改め
ぼやせしに、後は又伊集院武弘と名のり、
彼茨木の平田と改称してありしを、これの二男第九房

より出て薩摩へ出でしく今の平田とそれの子孫薩
摩国にあり、弾正の時、平田摂左衛門といふ者、京
陣の時、功績あり、小笠原伝授をめしつかわる
これもかの古今の武勇の祖父なり、亜来来
と改称しき自高房は八十餘歳まで
うせのびたり
茂質三十年ぞ、ちかまつ行田大人の許すて
秀松房を養嗣として、後の右近将監（高
して）流れ、左近は薩摩の国（高しま
いうせしといひ、高きものを見せ、ものを
そは長坂氏、かの来せしと、託れしと、勝託せし
宗房年経て、後又再出覚し、今の世の主家と

行きて乞ひ求せしるこるさらうる覺へぞとうのみ
さらで考板度へ尋ねうしとやくかしこる
用ひさせるふる古れ亦記し得られしとる里
古のれい皆改質う覚遠ありと知られ意り但
何のこそ見るう見しるい古遠かく再覚を
多多を用ざるが恨古さと古ハ三十余年餘
れり今果して廿説の詳細なるが用さ里但
きる見ちしが廿紀事とは覚へぬ推ありり
古のれを裸躰が鬱る蓋き川る海せしと
立るるい古古似う且秀稔い薩广るかくまつれ
く八十の事が保ちるれしといかす説ゞ人口る
除受ける所也

冊衣　羽織　全　錦里白石制答

一冊衣の事羽衣の諸なり羽の字草る書されい似る
文字なりそれハ三國志の先主の結毘又年寿う負
毘る鉦省ちし毘の子る軍容の加さくなり績
羽搭衣とも又ハ甲鎧上飾とも云其事なるうと校す
のこまハ〇因考る古口といハも多羽る古口毛といハ
あり雉子る古口ウツ物を以へは昔ハ者の古口毛
を以て飾とせしまりて古口といひしと見へこうと
陳るりせはさもある亀さと伝せぬ又史賈復傳る被
羽先鎧とあり注被猶負也云て負下の陳を云ふるく
被羽ハ古口負ひたる事成歟

一陣羽織のるを右の序るやすハ羽織といハも羽を

少て織て甲上ゟ被て軍容吉欣と為なとヤセは
すくゟ被羽の訓あり夏といフ字ニクルゟ襖なゟ
カリとはいフとめるフ但是ハ織と見て方まさ
るへきゥと案ハあす

○西國茶

一サゴヘイを舞水ゟ挙しに茶水舞と差うれしと
最こと伝ハ

○海鰻

唐音ゟもハイモこ。和訓ハモ。は唐音の轉和名
とあるへ百こ茂質抄ニ不しもゟ何ぞ国多ゟ
ゴンギリ。といフ西れハ変称あり羅甸Gongiri と
稱す変る事名詞呼フ天西の区変船職しく

○米くり時ゟ作ゥまや

○酒烱俗字

酒を加んするといフ事未い知ぬ者葉集の中ゟ
醸成と云字をカミナスとよませしこカンはカミ也
酒ゲ火をかく醞醸するゟ白あるゥ

○巴旦

ベンガレ漢譯榜葉細亜洲中ノ王爵國大莫邯兒ニ属
スガンゲス河ノ注ク傍ニ在ルノ地ナリ地ヲ三分ニ分
ツエイゲントレーケベンカレ。プリュロル。及バタレ。ナリ
支那ニテ巴旦ト音譯スルハコレナルベシ印度中ノ美國ナリ香料絹布ボー
ムウラル。ニ富メル國ナリヒブチル專地産
巴旦杏ノ弁畜桃核漉胞ノ條ニ詳註シ巴旦地名未

詳ト記セリ今思フニ此榜舊刺分州中ノパタン・ナルベシ又印度諸嶋中ニハパタントイフ地アリコノパタン（ハ津軽船漂着シ又彼島人九州ヘ漂着セシヿモアリ或ハ此パタンカト思ヒシニ已且ハ榜舊刺ノパタンニハ相違アルヤウニ

○

榑シレ

材木ハいかゝ木斷ハつゞまりたるまゝ儀式帳ニ云ふ榑階新猿楽記ニ安藝榑なしうり樞榑延喜式ニ檜榑清少納言ニ巨材を五扱ひしハ大鋸ナルベシ（賣り捌き販府ニ在ラシメ）ナルベシ

○

匹　もにさふ　和名抄

半挿の義柄ありて半ハ其内を挾むとの儀式帳ニ波佐布と見えたり堂上元服の調度ニ今ハ略ス

○

疑の巻　栄花物語

花ものいやしきと云ふ云ふ
ひゝくりの木の有り。う（ん木石ひゝくりなりと有り（ど
ひゝくりやもめ子きうせんと有り（ど
一さいせきへ（ど有やまらも。
ゆゝ有り和尚やう有りとい（どかゝらもつく御殿

あるさまなりあるものはうならばおとろかからをいも
ものはとづらひあり。かうとしてはまをかるをなし。
あかいきのかさうえてきかはおとろへぬ。たかのた
かあ紀のもみぢとい（どたかのクもみさかびき
あ紀のきりこちこめはまをこ田まをおかびみ
くをこてひとりてのクゼよりぬるとをいあ
のあを。みぎはれちまをこをかりぬめれを

體源抄

豊系時秋紀の女が堂を賣りしを代の也を所の
世ふるくものをたやすく買とりしは我家第ふ
いひく悦ぶる高きまをかり大ふる。後の世ふあ
れば利潤はまをもるをかり。庵の草花なんど

多けざものまをも餌ふ人のあかりふいひ所ひく
欲かまし紀はさしをくるしをれさへ他
のことに住けをの人の所ざまを見ふるをかり
まりを代のを所ふ信をかり上の所ものまをふ形
りを重箱といをぬへこぐひをいかふ賣人ちらを
しをうかをいやしくまをいをつらふ人
ふ加ちをして蜂くたまひたるをいをたをして目
きかぬ人あり奇ふかるけをる人をんとりをを秋
徒をいふ人あり何さまをしたる仏かり珠ふ堂留加
ふハ件の價ひの高つけをもあきをかをもたを奇
聲のいかをしきを上中下の品をして世ふ賣りの買
ひをるまを形ひ皆をまをたるものを買

ひとりて家の重き器は子べきは言若なりもし
身の不幸にして貧しく価ひをのきらは引あるも
をもし估らハ器の名譽なるべしあるの徒か
くバ家ぬしは如何いひきかせバ一枚の習至
學をあるを要きこと有りかくの如きの如あれば
家の寡加ありて不幸の言若もなるべし業つる如
き自質の無理なりとて見あるべし他人の如
あれる孫なりとの必ずしも親もとる立ち所位の
けく如変る高ときは如何なるべし

淮南子

乞火不若取燧審汲不若鑿井とのせく世習学問の
ことあらずして何るの人なりて事を成就せんと

一又人を羨みまねして功を立んと思ふかくのごとくて
人をまさるものはなきものなり他人もあれのく
なあれたる見れを性と免て身をさんもとまれだれ
の性らいづくらも成就し人り家をうらやみまね
ばやうなるものなり

有人臨刑　狐樹裏談引叢園雜記

明英宗時。嘗有人。臨刑以三覆奏得免。或問。當此時自覺
心神如何云。已昏然無所之。但記身坐屋脊上。下見一人
面縛。我妻子親識皆在其旁。少頃報至才得下屋。蓋上屋
者其魂。而所見面縛者其身也。觀此則世俗落魂之說信
有之矣。首の坐なをハ了て免許ありしといふ日蓮
な名言し性なる夫学の人なる功ひて学しといふ

るがきうさるおかれとも必ず右説くかのごとくなる
べし彼斬罪の西根等の皆甘のごとくなる[illegible]至時は臨
みて神魂は其肉体を離れ去る[illegible]又悲しきなる情
悲しきまた物のなるかくあらんと思もなるかうハのそれ又うそう
てんかといハ辞あり乱ぬけしてふ所之といふふ
すも見ぶしと多のなる

○

橘南谿春暉北窓瑣談

夜明けてもの静かなる窓のひとり月に対したる
おもしろ事こころはりし暁しかりしかるに悲しかり
ことをそりあげめて思ひ出らるる事ある人
の常なるうさるる情なるまゝこれなるなどにせき

うひハ知らるおこまるる事

○

物のなしまゝ

三法ハ永録年中来る慶長の頃澤角といふ盲人
まう弾く名人の名あり慶長年間琉球
始れり今の第ハ生なり其質きく所ハ寛永年間琉球
徳校の法を少なり徳校の伝へ
鉄砲ハ弘治元年南蛮国より来る
薬て詳録ハ楠正成より来る
録せり鉄ハ楠正成より来る
ゆる事録と校正事今伝長公の時代なり
質ハ慶記と校正事今伝長公の時代なり
質物ハ録念の法ハ簞笥
少今の製とはお表の物の
年中燈燭ハ永録年中
山方ゝ家物ハ天山
女棚

○

炮術備要考録ハ茂質
甲斐国ハ茂質
用ひしと軍器考
伝長公の時代なり
傘ハ天面
伽羅の油ハ天保年

俗間は男女和は直しして心中して死をるをもとめ
こゝまでいへ女棚と書とそ屏景山著園文の書は見申

○ 佳人

みめのこゝろをくれて美人はかからぬ世ぶはひも美
きものゝ有り言葉は豪家は鬼神出れをまとみ林
は秀る喬木は風吹けこれを摧き土人は岸は
れば水これを崩すの者人ひ岸ゝ人のをはあらば

○ 非笑

天下事大只是畏人非笑今の人あり志は
るまの生涯いさゝかと地を立るとなし業はとなは
材をつるは皆小変は人の非笑せん上帝畏るゝ者
豪傑の士は賢者の非笑をれゝ世俗の非笑をれ

をるゝ出とかのゝ

○ かき花をと人はいひてすごさまし乞はとくいの者人

○ 不輕 法華經 汝等不敢輕慢

拾玉集 ちてはす弟 おけども摧も山ゝ人をかゝめ
ぬ花をもちもる かくもかき出の菩
提句をおこして 奉不輕 とはきしあまく

○ 清少納言 枕双紙

月のあゝきこゝをうとをくとの思ひやられ遠はし
ゝうしのうれしゝうしとおかしとれわゝしとに戸
乃やうはおかるあり

○ 曉 ありやはある

和名鈔嚏和名波奈比流嚏鼻也云万葉集ニハ古今集
ニハ宇治拾遺ニハ皆ナ鼻ヒルトスルヒルノ俗習ニクサ
めといフハ嚏時ノ呪文なり世ノ下ざ法ハ人中ニあり
ひる時養くら（とまじ）なりハくさめといフ呪文の轉
云くさめハ休息万命といフ呪文の轉云ニ休息万命
ハ千秋万歲といフ呪文の轉云なりしめハ長寿
とまじなひたるなり又袖中抄ニ四分律云下鼻法ハ
答ニハ暑捨芥抄ニ嚏時頌クサメノ事休息万命急
如律令クサメといフハ是也と又物ニハ休息万命
をつゞめるハクサメとなるなり云ニ今云ハ和名
抄ニましなフハいかにぞや野乃舎随筆大石千引著
物ニハ今の俗習ニクシヤミと通稱してクサメ

とハいハず又諸方ニハナヒルを俗人婦女ニハ
いフハ通ずるものなり奥州民間ニハアックシヨ
といフ噴嚏ノ聲を云ふ也チニ名とせり
用捨ニハハックシヨ・といフ又ハクシヨノキ・といふもの
又鼻水ハ称して鼻ニあつれハ嚏ずるなハク
シヨノ水と呼フ牙皂を嚏くなり又鼻不食ナを
ハナヒリクサといフ嚏するものと思フ
ハなうり清名雪丹冊法眼の考授ニ
らで嚏あるを名とす但類ニハ嚏すれハ強ク音
ク嚏するものあり
まや質物ニハ十ヒルハ薄をひるなすの訓ある
（し噴出清涕聲と註す）云川滋高の禁
ニハいフ考ありや類聚ニ嚏有ルハ必ず

噦するを以て考れば頭腦より更る傳氣竹自然の
良知能の鼻中より排斥するの激勢滯滅竹して噴
おせしむるなり知べし微邪盛胃の表必これあり
和蘭ゴハこれ竹ニリスと稱す彼治療方ゴ噦セ
しむる效法あり鼻烟スネイフ鼻烟の主方の一なり支那ゴ
竹鼻ゴ噴おせしむるなり支那ゴ竹辛嚏の表ゴ
ハ噦方あり生薑なり生姜醋ゴハ粗粗あれども
同一揆なり

○

乳嗽

全幼心鑑小児百日内欬嗽疼壅乳嗽　錦囊秘錄
修德曰有小兒久欬皆因飽煖過愛養成癥瘕。滯疼壅
礙咽喉之所致也土俗呼為百日欬者是也言非歷百日
之久則不已也按此方百日セキト呼フ者ハ明朝ノ醫
称カ百日ト限レルニモアラズ百日間ト記キタルヨリノ俗
漢名ライハ、乳嗽ナルベシ奥州民間ニテハ三イリセキ
トイフ質按ニライリハセキイルトイフナルベシ
ライト促呼スイリハナキイルニテ物ノ底極ナリ香
川氏ノ所謂滯疼咽喉壅礙ストイフ負ノ名ナルベシ

李梴醫學入門小児門　乳嗽

乳嗽百日内不宜戀膈損胃肺孤危
或因啼叫未定喫乳或飲乳過度以致停蓄胸膈胃口
上于於肺故発咳嗽飯逆肺胃俱病百日間見者為悪
候

○

火葬

道照和尚未粒ーて文武の帝時より始ル皇國の往
昔散骨といひ奈良の墳日和後紀養和七年五月ニ

○相撲

すまひを西の方京の方とあるは如近畿左右京の左右なり記此西京記北山抄江次第今年相撲添加とに

○小野道風

菖蒲綸男。篁猶子能書。世云野蹟康保三年丙寅十一月卒歳七十一年鑑村上天皇康保元年甲子道風卒トアリ三年丙戌卒ヲ證トスレハ年多天皇寛平八年丙辰誕生ナリ

小野篁　岑守長男稱參議故曰野相公事父母孝身長六尺二寸足利學校傳云承和六年己未仁明天皇小野篁為野州刺史下向於足利郡所創建云　博識能書□

□達人輙往還冥府世云破軍星化身矣事跡詳文德實錄釋書年契年召還流人小野篁等トアレハ野州刺史ハ仁明天皇承和五年戊午小野篁放隠岐同七年丙辰遣藤原綱小野篁駅イカヽ千唐文德天皇仁壽二年壬申小野篁卒文政乙酉ニテ九百八十四年トナル

○エラブ

琉產エラブヽ中物ヽ乾勝見也何蛇ヽ中ヽ物ヽ

○○○

古堂ヽやまの

○エラブウナギ永良部ハ海蛇長二三尺僵直如杉索黑色猙獰可憎國人以為饌云性熱能療痼疾并治癘清周煌琉球國志畧卷十四

○毒

ドクヽ又ヽシヽモノ大成經ニブスト見エ奥州ヽもヽ今めどくを盛ヽすといフヽもヽ古ヽ記ヽ有ヽる「ブスブタウ

蝦夷ヨリ出るといひ毒箭（ブスヤ）等あり烏頭附子カブトを称す毒矢（ブスヤ）佐渡ノ国ニ附子のブスありといひハ鑿説なり大成経ハ偽書と字けとも
ブスハ毒の古訓なるべし

○

膏薬（カウヤク）

辛夷以脂膏潤物曰膏

○

竹印

淑性　王弇洲
茂質　豔異編巻二　龍神部　柳毅傳

○

昔秦伯嫁其女於晉公子令晉為之飾裝從衣文之勝七十人至晉人愛其妾而賤公女此可謂善嫁妾未可謂善嫁女也楚人有賣其珠於鄭者為木蘭之櫃薰桂椒之櫝而綴以珠玉飾以玫瑰輯以羽翠鄭人買其櫝而還其珠此可謂善賣櫝矣未可謂善鬻珠也今世之談也皆道辨說文辭之言人主晚其文而忘有用

丙戌孟冬初七夜書

○

嵯峨釋尊

嵯峨の清涼寺の釋迦佛ハ唐頼寶物集保元物語墓物かたりの帝稱檀ヨリ天竺國ヨリ毘首羯摩の作リたる佛のよしなるを小右記にハ白旃檀とも元亨釋書ハ栴檀上人承觀元年入宋遂於汴都西門外啓聖禪院礼優塡第二摸像乃雇佛工張栄摸刻而得之云て又保元物語寶物集墓ハ栴檀上人張栄の作れる新佛と毘首羯摩の作れる古佛とあり

彫せるよ一旦右のうに彼佛像の畫産の銘をみるか
唐國台州開元寺○傳偈寺とをいひて
かハ大石千引野乃金隠重ゑ載す前質徳年彼
稽迦の開帳西國田向院のまうし附至級石の略縁
記の印をはして考ます如開帳果て抜芝三像山
中ち中院ゑ於て親しく手本像を写し彼意
世とも一覧せり即於る言せるかめし南すて造ハ
せるものゑ義へあるまし畏首鶏麿と稱するハ
華云かう又ちうの来りしといふも設こる傳説と
ハらるゝかう

○

いさなとり海
蒙蒙集にいさなとり海とよみたる所先ごちいハい

○

さかハ鯨ゑりくらハ海中の大魚ゑれバとさうゑ
とりかして海の神祥とせるといふれたる生と千引ゑ
を拾ゑる伊ハ登徳ゑて漁る海といふをゑり又とサ
と者ハゑ

○

大石千引野乃金隠重ゑ武義國の使人に菖西三郎清
重といふ人ハゑりて葛飯を取かゝり武義の玉の屬
郡と云ハたる人ゑもハ何やまうゑ和義鈍も給杵
物にも葛飯ハ武義の國ゑれたり吾妻鏡巻一に治承
四年十一月十日戊午以武義國左子左賜葛西三郎清重
今夜御止宿彼宅と云されハ清重を盛衰記ゑ武義國の
使人とかけり生國ハ下総の西葛飯ゑれとも武義の
九子の左ゑ居住せるれ一旦武義の玉の使人といい

（り葛飾を武蔵ニ属られしなり慶長後カ質拠
は考証別に録するものを磨川の下流にまりるの所
しといへ共ちり六合河の上カ多くハリコと稱する
るやアエ漁りは都人のやくに所カ若めたる古口色
まや尋ぬ亀し盛衰記参考あり古し

○

奥州岩瀬郡与泉若其所を大槻と称す
田村宮内少輔顕頼後月斎入道聖林三春宇津志城ス
三春没収ノ後高倉山ニ死ス田村大膳太夫盛顕父次
男知行三万貫ヌ

○

鳥男顕康大平城ニ在リ須ケ川領ノ内岩瀬郡切取リ月
斎知ラズ与泉トイフ処ニ居住ス其所ヲ大槻ト名
ケシ内

○

顕康宮内後内蔵頭三春没収後伯州在内酒井宮内大輔殿ニ
寄附メシカ左門義顕弟内蔵ニ助清幸酒井家ニ在リ

陽徳侯様（ヒサシ）印象（ヒサシ）ヲ田ヲ憚リ大槻ヲ名乗ヘ
シト院ヨリ命セラル其子清房大槻三太夫清方大槻三左衛
門方ハ政易清勝大槻伯左無子断絶
清幸初顕則息清宣初信伯左ヘ文銘ニ年改易古内左ヘ
息顕雄息顕文三安初ニ古内右井理安子ニ断リ
ナル延享二年ニ右右初
顕次時ニ寄子ニ顕邦光子
顕邦

○

長城

秦始皇帝匈奴ノ疆界ニ於テ萬里ノ長城ヲ築ケルトイ
フハ人口ニ膾炙スル所ナリ印史記始皇本紀第六三十四
年本朝孝元天皇ニ適治獄不直者築長城及南斜地使蒙

恬築長城而守藩籬卻匈奴質等並時見ル所ノ西洋製總
長城七百餘里ニシテ
界地図ニモ其圖形ヲ出セリ扨白石先生ノ膏ヲ西図来覧
ニ異言ト稱スル所ノモノハ官庫御藏輿地大全和蘭ヨリ
ナリ昔シ今ノ堀田侯天文臺新等アリテ後船来天地
球及此西図軸等ヲモ其館中ニ発下ス質廿四五ノ時
天明初年桂川國瑞甫周君ニ陪ノ其館中ニ日官吉田敬
貞ノ官舍ニ到リ請フテコレヲ拜覧スルヲ得タリシカル
ニ其圖幅ノ周邊ニ敬行ノ横文アリコレ其各地ノ畧說
ナリ吉田氏ヨノ譯說ヲ請フ桂子為メニコレヲ謄写ス質
亦加功メ写ス甚功ヲ羨ヒテ待シ飯ル桂子コレヲ譯ス
ルニ當ヲ質亦會議校正ニ與ルニ其支那図說ノ條下ニ
長城造築ノ說アリ彼人コレヲ「ランガ ミュール」ト稱セリ

ランガ」ハ長ナリミュール」ハ牆壁ナリ其說ニ曰昔某王アリ
コレヲ築テ以テ韃靼ト鞑靼ノ界ヲ分ツ其造構ノ妙巧誠ニ
思議ノ及フ可ラサル者ナリト甚タ賞嘆セリ其譯說一卷ヲ為ス
モノアリ爰ニハ畧ス但此說中昔某王ト錄メ未タ秦始皇タルヲ
ヲ知ラズシカレ𪜈此事振古世界中ニ著名ノヲタルヲヲ
知レリ且漢土ノ眉ニ此城當時造築ノ構巧精ヲ極メタル
ヲヲ詳載スル者アルヲハ未タコレヲ見ズ却テ西士「ヨアン・
ヒブチル」ノ「コウランントトルコ」ト題スル輿地書支那
ノ條ニ其韃靼ノ界ニハ乃チ天下有名ノ「ランガ ミュール」
長城ヲ以テ其界疆ヲ分ツコレ則改羅巴洲中革命昌永按ニ
西洋紀基第三千九百四十七年ニ一箇ノ聖主世ニ生
レテ德化ヲ施シ文運大ニ開ケ制度全ク備ルニ因テ
諸國皆其正朔ヲ奉シ文運ニ其聖主降誕ノ次年ヲ以テ
中興革命ノ元年ト稱シ敬テ別ニ年号ヲ建テスエシ

ノ時ヲ距ル「凡二百五十年前ニ按コレ秦始皇三十三
元ニ三年ノ支那ノ帝「シンウス」按ニコレ秦ノ音轉ナリ孝元天皇ノ四年我
時ナルベシ
スコレヲ築キ五年ニメ其功ヲ全フスト云フ此長城東
方ノ大海コレア國高麗ノ遣ヨリ起リテ西ノ方印度
諸國ノ界ニ及ブ〻デ其直徑入ル瑪泥亞國ノ里法ヲ
以テコレヲ計ルニ凡ソ四百餘里今ノ日本里法ニ約スレハ八百餘里ナリ
其間高山巖石溪谷ヲ亘リテ其造築ノ奇巧ナル殆ト
思議ノ及ブ所ニ非ス皆大石ヲ斫テ方形ト為シテコ
レヲ築キ且其上面ヲ塗彩シテ灰白色ナラシム其厚サ
八尋餘高サ十尋餘コレ韃靼ノ人ノ入寇ヲ防ンガ為ニ
造ル所ノ者ナリト云フ此長城今ニ至テ尚全ク存メ恙
ナシコレ其造築極テ堅固ナル「常ニ非サルガ故ナリ

地震アリテモ少シモ損壞スル「無キナリ云〻コレヨリ造
築ノ形態及連亘ノ里程ニテモ能ク尽セリト謂フヘシ
古今漢土ノ書ニハコレヨリ尚最モ詳説ヲ傳記セシ者
アルベシ質等未タコレヲ見ズ但彼大國ノ西北界ノ封
疆ナレバ漢土モ東南沿海ノ地カ中國トハチカヒ絶テ
其地ヲ踏テ目睹スヘキヤウハコレナキカ或ハ至テ少
レナルベシシカルニ我寛永ノ頃越前三國ノ漂流船ノ
人衆実驗セシ口供アルモノヲ見〻リコレハ越前國
三國浦新保村竹内藤右衛門同息藤藏船貳艘國田兵
右衛門船壹艘以上三艘ニ五十八人乗リ寛永二十癸未
年卯月朔日出帆松前ニ為商漕ギ出シ海上ニ於テ大風ニ
逢ヒ韃靼國地ヘ吹キ着ケラレ其國都ヘシル召喜夫ヨ

り北京都（支那語ニテ北京ト云フ）に於て解地方に護送せらるゝ事對州、
内古川伊織門（ハ）に於て遂に對馬國（若松國）なる
の覺書物弘稽五人と内に國田兵太郎門守野与三次と
いへる者自殺す江戸（岩越）前稽五郎右衛門口供之
正義氏遺要分界図考巻二抄録ス　其中に一話

一　韃靼ト大明トノ國境ニ石垣ヲ築キヤハ万里ヲ隔ツ
ヤハ高十二三間程ヨ見ヘヤハ但石ヲ築キ（イニ無ノ）尾
のごとくなる物厚サ三四寸（三四寸ニ）方にはゝ立ねあつくひ詰
に仕上堅り滑らかなる燒物なるくもりをつけやをくなり
（イニヤハモ損シ見ヘス）扨し弥古く見（いはゆる）ヤハ（ヤハ）を（ヤハ）
道通りの所ハ（イニ往来）石垣をまるくくり抜キ至上
ヨ門穆を立ヤハ甚多くはゝ立とくもりをかぶせをく

に瓜もかゝり（ヤハ（イニカ）ラ又ホトニ文夫ナリ）
韃國漂流記ニ云松前西在突符（トツブ）村孫太郎安次郎等
寛政七年六月韃地（漂着九年二月唐土ヨリ長崎
（的國ノ口供ノ中八月初コタイ（寧古塔（ナルヨシ）ヨリ出
立ケンリ（ト云フ所（着（清商ヲ質スニケンリハ
カトイ（ハ）ニ北京ニ着四訳官ノ官舎ニ宿リシ頃キ（韃靼音或北京ノフナルヘキ）
ナレハ此者共モ必ス長城ヲ經テコヽニ到リシ成ル
ベシ云カレ氏絶テ其話詰紀事ハナシ　質當テ松
前人韃地漂到ノ話ニ長城ヲ按ケ通リシニ其塀ノ
造築カンクトノ黒ラク燒ノ如ンナリシト語レリト
イフフ誰ニ聞シカ彷彿ト耳ニ留メテ臆記セリ
コノ寛政年間ノ突符孫太郎カフニテヤアリケン

後考ニ錄ス

熟敬フルニ始皇帝此長城ヲ築キシ年ハ前ニ錄スル
カ如シ支干ヲ推スニ其時ヨリ清道光四年秋迄ハ
年乙酉ノ年ニ至テ貳千三百九十年ニ至ル本邦ノ人覓
永ノ頃貳千二百有餘年ノ後ニノ図ラズ目睹スルヿヲ
得スルヲ近時ニノ親聞シ又此事数千里外ノ海西欧
羅巴人所説ト符合スルハコレモ亦百有餘年ノ後ニノ
吾輩ニノコレヲ知レルヿヲ得タルモ奇トイフベシ西士
記傳ノ其尤愈〻精確タル造築ノ形態ハヤヽ漢人
ノ書錄アラハ參校アラ〻ホシキヿナリ蓋彼城貳千有
餘年ノ久キヲ経テ少シモ損壞スル所ナシトイフ所ヲ以
テ察スルニ當時ノ造巧殺萬人黔首ヲ辛苦艱難セシ

メシヿヲ思ヒ量ルベシ此王ニアラスンハ誰レカ此擧アル
ベケンコレヲ議ノ是トイハンカ非トイハンカ往年紀ノ
鳳翔公子（後桑ノ始皇ニ顯セル一絶ノ其書句ヲ臆記
セリ古来豪傑寰宇無シゲニサルヿナリト覺ヘタリキ當
時彼王世ニ比類スヘキモ無キ無道タルヿハ他ノ世界
ノ人ハ聞モ傳ヘス唯斯宏大非常ハ百里連亘ノ牆壁
尚今モ存在スルヲ見聞シテハ一人トメ消膽セザル者アラ
ンヤ但方今支那一統彼清朝韃子ノ所有トナリシハ天
カ命カ果ノ何ニトイハンヤ

乙酉歳晩伏枕蓐中ニ漫筆

○土圜児

石ヒカノ蔓の長きを君ちりて芋の子のとき九

根多く連り侍りまた名くるを和訓榮桂子土圍見
い圍といふ可なるべし土圍切圍あれはなり諸物の
原名を邦の人叶例弟と
不ど両隠稱謂
○
神代記の隠をよ急り火戸の義節信い義の発する
所なりといへり古事記の信上りよ発り

小石川見附内大御番加藤傳兵衛地中所掘出土佛像
古銅重一貫目許

水道橋内稲荷小路御小納戸三木勘解由地面中所掘
出玄德像古銅重二三百目

方今都下、有一隱士山本晋山者、性素不凡、能相地而
察金氣、人使渠相宅地、乃就其地、噓壤候氣、曰、某處有
金氣升騰、或曰某處銅臭起、邱鑿之不過一歩、果得古
銅神佛像、如有神所誘然、小田切氏之觀音、及柳生氏之
大黑、亦其一、而皆二三百年外之物也、如此二像予訪
其両家而所親觀也、憶是千載深蟄于地下者、一旦再
出現于人間、不亦奇乎、予感嘆之餘、手自摹寫、以示諸
同好之士、文政甲申二月十一日、丹洲栗瑞見識

○香芋 清陳淏子秘傳花鏡

和名 ジヤガタライモ 八升芋 一升型年八升 二十八因名
蝦夷 ジヤガライモ ジヤガタラ ノ轉訛 甲州 清太夫イモ

落花生。一名香芋。引藤蔓而生。葉極生小白花。花落於地。
即生莢。連綿牽引土中。畏寒不耐。冬盡掘取。煮食香甜可
口。南浙多產。
丁明徐尔貞醫滙云。落花生一種香芋。大者如雞卵。小者。

如雀卵。外形黄白色。煮食甚香。其藤蔓微似山蕷本草失
収。惟近時食物本草中載之亦略子性味。主治姑闕之。以
俟後之君子
嘉定縣志云。香芋根下累々生実。狀甚圓淨。其味甚美。與
常芋不同。
松谿府志ノ銅鉛薯ハ又ヲ此同物ナルヘシ
馬鈴薯書トメ置タレ共搜索スルニ見得ガタシ出処モ急
ニ不知追テ吟味記シ上ヘシ蘭山ハ此物ニ充ツ予ハ穩
當ナラズトス其記ハ蔓地上ニカラミテ蔓延シ実ヲ
生スルヿ馬鈴ノ如クナル形ニメ色黑シトアリ地上籬ニ
カラミテ馬鈴狀ノ実アリテ色黑キモノハ黄獨ノ零
餘子ヲ折テ云ナルベシアップルニハ充ラズアップルハ葉

葉極ニ別ニ穂ヲナシテ白花ヲ生スルヿ茄花ノ狀ニ
似テヤヽ小ナリ今ハ淡紫色ヲ開クモノ多シ根顆モ紅色ニ
メ明徹メ白花ノモノハ甚稀ナリ根顆モ大ニメ雞卵大
ノモノ多シ根皮黄白色ニメキレイニスキトオルキミアリ
嘉定縣志ノ根下累々生実狀甚圓淨トヰルニ能合符ス
只其味甘トアリ今本邦ニ培養スルモノサノミ香
甘ト云ホドニナシ土地ニヨリテハ甘クシテ甘薯ノ味ニ
似タルモアルヘキ手今落花生ノ実煮食フヿヲ不聞
此アップルニ於テハ土地肥壤ノ処ニ培養セルハ横ヨ
リ其土ヲ掘テ其根ヲ捕ルニ累々不斷シテ取ルニ隨
テ手ニ満ツルモノナリ花鏡所謂葉種生ヤ白花ヲ
連綿牽引土中累々不斷各盡掘取煮食ヲヿノ説ハ相

違モナキアツプルノ形容ヲ盡セリト謂ベシ
又云今黄獨藤上ノムカゴ大者ハ雞卵ホドノ大サナルモノ
アリ小ナルハ鳩卵ノ如ク色黒ク赤褐細点アリ蒸或煮
食フ味甘美ナラズ野人呂稱ニ充ルノミ地上ヨリ高ク
蔓延スルヿヲ云ヘバアツプルニ馬鈴薯ハ充ガタシ尚其
本文ヲ撿点シテ其的否ヲ知ルベシ

乙酉臘月念三日　栗丹洲拙筋

右ノ説先輩亦云及トコロナリ落花生ニ二種アリ長生
果ト又甘芋ト迥ニ別ナリ甘芋誰々モ寥ニカタノナキ
モノナリ予ハ此モノニ充ツ亦博洽君子ノ明驗ヲ得
又先生ノ意如何

○吉備一時軒惟中隨筆消閑雜記抄録
播州須磨寺宝物数ヘ為ル内雜慶ノ筆トシテ制札ア
リ其文左ノ如ク

此花江南所無也一枝折盗ミ来ル任天永紅葉之
例代一枝可尊一指
寿永三年二月二日

是ヲ弱木ノ桜ヨ流ルヽトイヒ使ヘ人ヲサ思ヒ住持
ヲ為ノ為ノ桜ヨ流ルヽ是桜ノタメノアラ
ヒ桜ノタメノ書ケリ余ノ為ノ書ケリトヽヘヌトヽ南宋陸凱寄
范曄詩ヨ
折梅逢驛使ヲ與隴頭人。江南無所有聊贈一枝春。
叶月三ノ句ヨリ江南所無ヲ桜ノ一名トシテ一枝トい

（白砂は話より思ひいる文章なり又は何と書如しるも梅はあらずや左様梅の制札を梅の名木なれハ五金て須磨寺の付物と為こなるべ
茂質少壮の時西遊して須磨寺を探討し日奔走
の書なりと云ふ制札を見て能書なりやと見るべし
また文文章は伐一枝可斬一枝といひを記し
労めしまたなりしが四十年の今まして日秀吉を見
るを招て古墨を少く見を顧れハ弁慶の
武名あるハいかの文なり頗の文雅なり人と見
（左）文永紅葉し例整尋ねすしに麿弱木の名木
と云ハなを学ぶ
祖来の南流別走る弁慶の武義坊と稱せしハ弁の
片假名「ハ」なれハかく稱せるなるまや滑稽なる

人なれハ左ある為（しとい）思ふる日滑稽
文章なる為なるべし武義と稱せるる縁
故なれハ徐箱の為なる事しるれしのいハれなる
歟
又消閑雑記の中る西塔の却さし坊弁慶のひとくひ
女と貪しまてる日文長千万ぬ一度千度る
同しとも再び貪合なるのしとも謝る大男の為し
物る度ハまぬ質〳〵おふくの筆書を見るる弁慶
る女色る左ハ八色といハるつひる見ていの為
生れつきや色黒し○文武の左る紙一為ると
云まうるを知る

○八月十五夜

の月を賞するをもつとこれハ唐より古ら
起まして高くまで蓬萊の山なる（き
るなくなる）されハ擊壤集の邵康節中秋の詩に
一年一度中秋夜十度中秋九度陰と作せられぬ九
月十三日夜の月もこしらるに沙汰なし日本にて
菅道真詩に
昔被螢雪籍組練今看駑謫草業因月光如鏡無明罪
風氣如刀不破愁
中詩を作りし見るもいとあはれ深きなる
句なりぬ天無影詩集涉性の蘭白の詩に
十三夜影勝於古穀百年光不若今獨憑前軒回首見
清明此々價千金

これらの事を本とし中古夜を名とし極ぶ

○殺　西域萬字仏胸前吉祥相也　名義集

卍　中字　満の訓あり　七の字あり　延命の事を
七の帝とやこれ七人の賢人を左右まして政をあさ
ゝ人ーきとをいたんとて七世といひ徳の表をあ
ケて七徳といひ表ゝ
五の殿　主　五ヒルりさ紀薬の三ッ薬四ッ薬
の殿作　中夢の三を四薬も勇き也
バルチウム　ーリス　ーロリス
ーハポリス　ーニリア、

○

此二羅甸名ハ製煉術ニ係ル器具ノ名ナリ即薬罐ニ

屬スル者ニ但此事ハ其圖狀スル者ヲ見レハ錄示スル
ヨリハ能ク理會スルナリ左ニハ唯其大略ヲ記載ス宜
シコレヲ參識スヘシ

バルチウム ヒリス」ト稱スル モノハ「オハフルハーリング」羅甸デスチルラチヲ此訳蒸餾滴露法 又「アフテレッキング」羅甸チンキチュール此訳茶豪浸出法
ノ二製法ヲ重湯ニ於テスルノ一法ナリ即温湯ヲ
盛ル ノ鉢或鑵ノ内ニ其ジスチレールガラス硝子蒸餾器即ビイトロラニヲ居ヘテ其内ニ納ル所茶物ノ氣ヲ泡出シ得ビキナリ
ルモノヲイフナリ

バルチウム アレノシュム 和蘭サンドバットト訳ス 沙火茶蒸湯ト訳ス コレハ沙ヲ盛
リタル「コム」 或ハ壺或鉢ノ内ニ茶ヲ納レタル硝子
蒸器ヲ埋テ其藥氣ヲ蒸シ滴ラス法ノ名ナリ

バルチウム パホロシュム
コレハ氣味輕浮ノ諸茶物ヲ熱湯或他諸液湯ノ上沸
氣ニテ其茶氣汁ヲ蒸シ取ル ノ名ナリ

○梧窗漫筆曰酒ハ天ノ美禄ニテ 前漢書食貨志 上下ノ人共ニ
小々ツヽ飲ニテ歡心ヲ生セシハ天ヨリ受ケ得タル福
禄トモ云ベシサレド酒ヲ飲テ温克ナルモノハ千百中
ノ一人ニテ先ハ傲慢ノ態ヲ生シ怠惰ノ念ヲ發シ忿
爭ヲ起シ陵犯ヲ生シ奢侈無用ノ費ヲナシ一醉日ニ
富ノ類種々ノ惡行此ヨリシテ出ツ内ハ身ノ病ヲ生シテ
性命ヲ失ヒ外ハ言行ニ過失ヲ生シテ身家ヲ亡ス酒
禍ノ大ナル天下ヲ亡スニ至レリサルカ故ニヤ書ニハ酒

誥アリ詩ニハ賓之初筵抑ノ二篇アリ禮ニモ此ヲ戒ム世ノ人ノ酒徳ニテ身家ヲ害スル者ヲ見タル丁野キ故ニヤ平生酒ヲ畏ル心酒ヲ好ム心ヨリハ長シ大禹ノ悪旨酒ノ一事大聖ノ戒ヲ垂ルヽノ遠キヲ知レリ

飲倒レトイフ語ハ奇特ナリ多ク飲メハ倒レ則チ人ニ至ル又我命ヲモ倒スヘク又我家ヲ倒スヘシ酒ハ倒ルヽニ縁アリテ興立ニハ遠キ者ト知ルヘシ

乙酉仲夏抄錄ノ吾門ノ徒弟ニ示ス

築營洲　晩翠老人

○

先日白科の茶と抹茶失角性白コウセキ科ニブリと茶花を利用園中の徳、の名しひ

○

松島図誌　敦為子作　文政三年庚辰印行

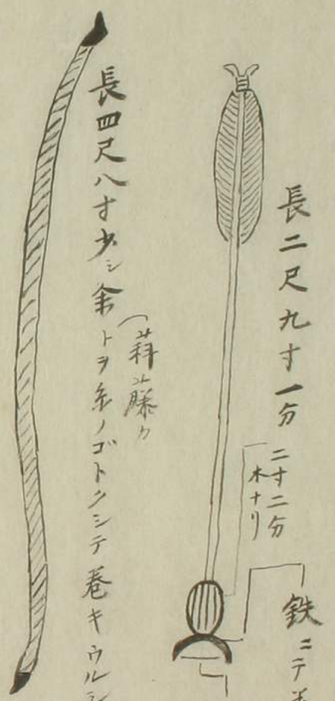
瑞巌寺中尉の竈の名なる次の用ひといふを彫て板榜あり秋葉山三尺坊の事跡なる迄に先住の和尚の時なる由れをかけたり事多く略さ成くなること

りて尋常なる所に見申る故なる世の人これを賞賛す

○

古松軒四神地名源武義國葛飾郡飯塚村名新の觀音と称なるあり事蹟なる住僧もなく事傳なる事尾あり中和の名主の保居住す事名主の先祖なる年号不詳建立せし堂なりて立なる年も年古し四地心中名主の家なる止者せしなる事者の嶺のけなる幾方年経ては一多なるや立なる古く見くし事矣ある方なる也ノ一覧す図の事きの事矣なり

何の為に用ひし矢といふを知らぬ暮月の射法に用
ひる矢にもあらんか何にもせよ弱きといふべし



按ずるに長記弓を製し初めしは遠からぬ事也吉氏
五の時代まで用ひしみちちの丸木の弓に遠びな
き事歟而孫四郎の比叡山の我は熊野武者

射傳せし弓矢を持伝へしを孫播州にありと云是
を見しくの物語を聞くるにこみ〳〵の丸木の弓
なりと云目のあらく藤巻候の左中の行列に持
せるかつぎ弓にこみ〳〵の古〳〵の製せし弓
也古弓の形を知らざる人に弓の形を知らざる
人に弓方といふ（是高倉家に於て弓連絡と
せし國の弓方に自然の古風なる者の例を
引て古弓を行列に持せ給ふ也中古の名主
の先祖に開口何うしと称せ敷る事中地に
住居せるに引なく自然の古きし弓矢の残り
しものなるし　矢の根のうきくるもあらぬ月
の形せし物なれば古〳〵に用ひたる月鋤に作

り初しや云

○ 玉ゝ下ちつけする世なれ分いさうゝ深山
のおくゆゑとゝめす 玉のさうゝかゑ人の
情しきれしちるゝをゝ
云のうつろをぬ分ゝ

○ 亀ト

亀トノ法西土ニ傳ワラズ及テ我 國ニハ神功皇后ノ
三韓征伐ノ時ヨリ對馬國ニ亀トノ法傳ワリタリト
イヘドモ其書ヲ見ザリシニ對州ノ儒臣雨森氏カ著
セル狂草ニ亀トノ事ヲ載タレハ對州ニハ亀ト傳ワ
ルコト明カナリ其文左ノ如シ
この國ゝ佐こ(し亀トゝいゝ(の遺法なりゝと

お用ハ吐うるハ一蕃うるハ一 加身云きのまゝ依
身云きのまゝ多女まつこ一とい(るハ兆ばいのたゝしき
ゝ一とくゝーみつけさうあゝ里やらゝいとい(ゝハ
兆トの変ちゝ里こゝゝゝかいい(ちとゆるひゝとゝりのとき
れゝときくとゝれゝとついゝとちゝいゝとい(るハ吐
の変ちゝ里ゝかさうひゝゝかきれゝおさくゝか
ちれたわゝゝのゝとい(るハ普の変ちゝ里加分いさゝ
と加身をゝゝひ加分きれゝ加分かるた(とい(るハ
加分の変ちゝ依身いきゝゝい依分をゝゝひ依分き
れゝ依分ちゝ(とい(るハ依身の変ちゝ里多女う
ちとをれゝ多女わりとをれゝ多女きれゝ多女ぬ
きとをゝ佐き多女とい(ゝハ多女の変ちゝ

よそト法ハ北ハ見てしあしを志るかりトの家
いそめたちかくしたたていつくまこつのうかちたを
もてやき吐すもらむ

○天竺

天竺國一名身毒在月氏之東南數千里俗与月氏同而
卑湿暑熱其國臨大水乗象戦其人弱於月氏修浮図不
殺代遂以奉俗浮図即佛也 云々 後漢書 宋范曄 第七十八巻

○巴旦杏 amandelen

阿月渾子 波斯家呼為阿月渾子出西國諸番嶺南山谷拾遺胡榛子通称フスダスフスダシウノ義不詳

阿勃勒 Cassia fistula, pipiha etc,

畢澄茄 又畢陵茄皆番語也 生佛誓國南海諸國向院生云々 Piper cubeba Linn Straet Repor

胡盧巴 Foenicle

榲藤子 賀蘭君此品ヲ説ク者ヲ見ス生廣南山林間ト見ユレハ未タ目擊セサルカ尚考索スヘシ

無食子 galnoot,

大風子 和蘭人未タ此物ヲ知ラ海南諸番國ニ皆有之真臘記ニ形狀ヲ詳説スルヲ見レハ所謂中天竺ノ産ニメ漢土ニ渡シ夫ヨリ本邦ヘモ古来船上ノ品ト見ヘタリ

○古今来許多脚色 脚色ハ芝居ノシクミヲ言

○多くきの図（の内その一物）をこの世のこの世のこの世のこの世

古ハ藤原信良の京方新千載集ニ初ての先立
志の京方ことに年山紀開ヨリ初セリ

新千載集巻十六十首

鶴の声は かきりの至 のどかのびもてぬ

仲恭院

堀河院

惟宗時俊朝臣

時俊は永仁元年醫師千家文の撰者数位正五位下惟宗時俊なり 中臣一芝の弟なる

○

先達の仙蓬と称山人参北八醤草蘭山啓蒙ニ

タウダイニンジン一名カイホウニンジン 即八丈草

ナリ 海名醤草と有しは八丈島に不傷諸と山中に

有しとの事 獨活新に成りの食料に成りの

根の柔軟なる少し香し記憶味甘し 弘しや

芝やと敷しも者へ考へて見

ムカゴ人参

五枝五葉二枝有る 木葉の根茎を掘

市流也

白揚

五月五掛り居し年上に諸蕃繁昌日と云

掛り 七月の又出の彼岸日 延引の意想

ロ 五月五日

十月八日

○

備州東南ノ山無仰和尚トイフ道人アリ 為秋法教

ノ編著アリ　辭世

偶偶押牽　二十三年

唱　春風拂天

偶偶韻　木偶戯（ギヤウ）　コレヲアヤドリテ種々ノ事ヲサスルヽ人間一生ノアリサマ、立躰ニ根ヲ動カシテ、ウタフツ、ヽウツ、年月ヲスゴシツヒニモトノ水ノキレトナルヿ誠ニ出羽カ操リ芝居ノハテタルナリ

夢三句一唱シテ結句ニ今日ノ現成ヲノヘタル色相メレカフレヲ知ラレ

○ Belladonna（ベルレドンナ）　莨菪（エツセンチア）

Cuscahilla（カスカリルラ）　北アメリカ産木皮解熱ノ功アリ

○ドロノ木　白楊

奥州田村郡菖蒲谷（ヤ）村邊ニテドロボウノ木ト呼フ合抱ノ大樹数株アリト按ニ其形状ヲキケハドロノ木ナリコレハドロノ名ヲ土人戯テ賊徒ノ俚言ドロボウノ名ヲ負セタルニヤ

○唐音直綴（ヂキテツ）　十徳（ヂキテ）　十徳ハ直綴ヨリ来ル名ナル

直綴（ヂキトツ）　僧家上古服偏衫帔子後世連上下為一ー

○ド、チウス　一千五百七年　教永正四年ニメイケレンニテ生ル六十八歳ニテ天正三年ニ死ス一千七百七十五年ナリ

スウエーデンノリンナアウスハ元録前ノ人ナリケムヘル元録年中日本ヨリ帰國ノセツ迄ハ存在トイフ

○胡椒　藤黄　畫黄ヽ　芙ニ木族ナリ

○益智（カダモン）生姜ノ如キモノ

○唐木香　プーチヨウ

○土木香　アランツウヲルテル　帝苑園木香

○虚室絶塵想　陶令

白（コトバ）　説白

科（シカタ）　拜科（オガムヽ子）　眠科（チフルヽ子）

○長崎（ニテノヽクチヲダブス・としか）　物ゝ多者ゝ

木梃ヲチヤクワン・としか　物ゝ多者ゝ

○抄　鈔俗字　鈔　謄錄寫書　纂述

鈔引　大鈔　小鈔　ハガキ・ギンサツ

皆曰鈔

宋紹興二十四年造鈔

○ドンド　サギチヤウ

散鬼杖（サンキチヤウ）　杖讀如兆蓋　焞度（ドンド）國語猫言燧

爆杖之遺　焞也火熾貌

○彼岸

自春分前五日凡七日謂之彼岸

按二八両月為春秋之中日夜等。譬如在両岸中央。彼此相比皆齊等。故二分前後凡七日。曆家謂之彼岸或謂之比岸　見埃囊鈔

人勝　國語雜ヒナ

神無月

十月謂之上無月（カミナシツキト）

按上無（カミナシ）　本邦律名　上無比讀云加彌摸　本名鳳音樂家相傳為應鐘ーー十月律也　故呼是月為上無　月名呼為加彌　那詩義相通俗

或作神無。以國讀近誤耳

師走

十二月謂之四極（シハス）又曰極月　貝原損軒曰是月也四時極盡。故曰四極此讀云四波須俗名極月亦此意豊後有四極山亦謂四波都山都須皆一音之轉　熙按元日曰四極即四者之極也

極月猶言窮稔窮月也　四始見潛確類書窮稔窮月見月令廣義

煤掃（スヽハラヒ）

掃塵　閩書引漳志　除殘　歳時紀異集

百事大吉

熙朝樂事曰正月朔日簽栢。枝。於柳餅以大。橘。承之謂之百事大吉

○磐翁日渉第二　丙戌初秋起草

限本藩堀内傳右衛門編集赤城義臣對話曰義士共之内
ニ富田軍兵衛と申せし小知なる者有之候此者ハ志
積ミ能様と兼及ひ申候大形一番ニ[illegible]ハ不案者
ニ而中ニ一列ニ加り候様成者ニ而候由實ハ於而ハ上野介殿
討果し泉岳寺ゟ立退申刻三田八幡之迄而すゟ參申
ハ何とぞ物とぞ不申候[illegible]社役人へ申ハさい
つ人も中々遂け上野介殿を討立志白しと申
候泉岳寺へ持參申候よし[illegible]出之申候を相ニ
是も相安堵致申し私ニ申候三田八幡へ社参仕
候様ニ申候を是遂ハにと申祈願と存候[illegible]
立て割[illegible]申候段軍兵衛と持參泉

無言で門番を表因幡殿へ助を乞何れの所へ行いた
酒持参仕る由申し上げ奥へ引込む門番は
若者を捕へ小くさ奴の名を呼へ踏
殺すやうに力をよこしいこと言こいとやかい因幡殿
やうに捕へ名いあのやうなるものと言ひ
何の益やいとく軍を場へ呼入中者ども市蔵と酒
を呑給へと門番なるやうに曲取中ゆを結ひ
主ども雪仁の平蔵何なる百仕ひる解手
義やかなる仁なる上市蔵と
通る因幡殿家中大形腹れ者何と勤
さもなく勤ず勇みなるものとやかい秋おやけ
左様なる者ども言ひ奥なく世渡りの上手者

今は多市蔵を拵者を仕掛ける者は主人と
こなし申事不実なるいとやうなるものなる
是なる者しかるなる真源院様御代に於
江戸へ割こなる六ヶ敷御
無法不御意叶い拵殺仕る
事い何なる百仕ひる殺御
れと一ツ而こと百仕かくて
いと一度附友文左衛門市蔵と五百
こなる迎者こ呼ひ五百石以上と男子を嫡家
附多ども百ひとへこなる仁ども仕い道筋が
る是果不及是非若師を及所絶を誰とは殺やい
凡へとくい何なる不調法こ者ども而こ百姓こ一ツ而

この比五性と男五常とを
ひとつ一所に所用にて二のかと侍家に生まれし武
士に算盤に叶ふ五とを兼ねし免許皆
伝に因りて色と格とのみ侍まのまこが無ば上方に
て物なを用ゆ。ゆゆしたる。ゆ。亜くなる。ゆ。おかしたる
夫に用格を用る立ひ名時に士卒を用る事
ぞとくにるひ云に異物
物を拙内に者に見学して中活をみひしと謙る
慶激をる亜ありて義学に見及ぶ所亦
物のかりゆめ〳〵ちに重のるに立る物
録〳〵たり

唐錦巳如則九章秋老

内法才六

家のうちに三つの親〳〵とはおやこきうだいも
の中をいひかり親はあいはれ物うるれあ
〳〵をとらばそ子いたく〳〵を重れて童らちま
ようち〳〵きに寄らに兄は弟のうやまはさ間を
れに奏めぎ部主りまし〳〵兄に
弟はのうちのよりぬをのうずまて我つ
〳〵のいまぐ〳〵をう〳〵ぐとつばをりと者多ぐる
性まのをれかかり〳〵ぐるのこの名侍〳〵我方れ
かり〳〵ひまりかはるといまり免ば性子のあぐるをりて
の効れ当ちかりぬれに三かこちろを性をれかまりか

[illegible]

人のつまのかゝりかゝりおのゝくゝの内のそれをとり
[illegible]
身[illegible]ゝ者ハ人をまゝ
[illegible]
あさまつ[illegible]

○

大風子

秋邦醫[illegible]方ゝ大風癩病ゝ[illegible]
[illegible]丙戌の妻和蘭醫人ニイボ
ルトゝ[illegible]
いかゝ[illegible]
[illegible]大風子の名補遺[illegible]時珍曰大風子今海南

諸番國皆有之。按周達觀真臘記云。大風乃大樹之子。狀
如椰子而圓。其中有核數十枚。大如雷丸子。中有仁。白色
久則黄云。按真臘ハカムボチアナリ所謂中天竺ナ
ルベシ明ノ頃ヨリ唐山ニ輸メ西洋地方ノ人ハコレヲ
交易セサルモノナルベシサテ能治大風疾故ニ名ツク
ト李氏說ナリ彼邦稱モアルベク樹ノ形狀モ詳ナルヿ
ヲ得ズ朱震亨及李氏モ殊効アル芸ト說カズ外
塗其功不可沒也ト說ナリ附方ニモ内服ノ方ハ普濟
方一方ノミ他ハ皆外塗ナリ

○

續日本紀天平七年八月太宰府言管内諸國疫瘡大発
百姓悉即今年之間欲停貢調許之十二月自至至冬天
下患疱豆瘡天死者多矣云文德実錄仁壽二年二月

京畿及畿外ニ多患脚奮者甚衆天平九年及弘仁五年有此奮ニテ

續古事談裏奮トイフ病ハ新羅國ヨリ起タリ筑紫ノ人魚ヲ買ケル舟放レテ彼國ニ著テ其人ウツリ病テ来レリ又出雲裏物

○

戸ナドノ絵ニイレサルノ類　戸障子ナドヲ　鉄ニテ作ル門戸ヲ閉ル具　海中渦

Hervel, of Seevel, or Hervel of Drainfork,

脊椎　Ruggeraan　Spina dorsi. | Rugge, dorsum,

脊椎　Rugge-hervelen, vertebra dorsi;

腰椎　Lenden-hervelen ——— lumborum,

椎骨ナガレホネ　Hervel-been, lenden, vertebra,

脊　Tergum.

假椎骨　Hervel-been ——— spurie,

脊椎骨　Hervel-been, Gr: Spondylus.

vertebra, vertebrae.

二十四アリ　項七ツ　背十二　腰五ツ云々

Ryde Hervelen, ナイフ谷アリ

Hervel Vatten

脊骨ト訳スベシ又脊梁

○ Ruggraan, spina dorsi, Rhachis, gras, of trap.

○ Vals-ke Hervel-been ——— spurie,

假椎骨

△ Graat, ossa, 骨魚　○ Ruggebeen, 脊骨　ruggeraan,

階級コヽニハ椎骨ヨリ
一身ヲ立ル所ノ骨柱頭首ヲ擧ケ諸肋ヲ護持セヲ
ムコレ卽七項十二脊五腰ヲヒルヘレヲヲ以テ作為
スヲ云ヽ

羣徵曰膂三十四

膂 音呂 夾脊也 胎 俗呂字背脊本作呂加肉作膂
脊 背脊也釈名積也積續骨節脈絡上下也
說文 率背呂也 象脊肋形讀若笛率背心也
率骨 ^^^ 象 — —
背 率也身之陰也背為身心總會處
呂 率骨也 呂率肉也
率骨 二十一節如珠云〻 呂象人脊宮躰从此非二
セノミンナカノホネ

口

滑伯仁 椎骨為脊 脊兩傍為膂 挾脊為膂 セヲヽ
督脉背中ノ行 行背部之中 脊中
脊之為骨 凡二十一椎 膂骨至尾骶
人之脊椎有二十一節 graai graai
椎 說文擊也 擣也 又椎鈍也 ー ー ヽ 不曲橈也
音追 通作槌 棒椎也 所以擊也 又鐵椎也
槌 擊也 擣也 架 鑿 鎚 薄 柱 椎 ズイトイフハ誤音

Helpful

— been

— been Reason,

Re lied in it suggested

沉 形釋骨

臼骨

項大椎下記骨曰項大椎之下二十一節（節亦作椎）通曰脊骨
曰脊椎曰膂骨曰中脛第一節曰脊大椎如杼故亦曰杼
骨　骨度篇曰項髮以下至背骨　顱　脛
ウェルヘルベーン
―ベーンテレン
リュッケ　ウェルヘレン
リュッケベーン
リュッケガラード
脊　祈骨　椎骨為脊
椎骨ハ脊骨ニ改ムベシ原書ニエルヘルベーントハア
テザルベシ必スリュクベーントアルベシ椎骨トイヘバ脊
ノ一節ニナルヿ通編ニ或ハ脊椎トイヒ或脊骨ト
イヒ或ハ椎骨トイヒテ一例ナラズ後世学者ノ惑
ヲ生スルヿ又脊椎（リュッケラード）ト背椎（リュッケエルヘン）ト混用スルヿモ見ヘタリ
原書ニ比校ノ後学ノ軌範トナル様ニイタシタシ

○

鎮懐石

此石ハ長崎ノ末次忠助ノ宅ニ在シ時ノ事ヒトヨリ云ヒ伝ヘ
在昔ノ吉雄君左衛門ヲ以テ鎮懐石ト稱セル
多ノ由ナリト
神功皇后異國ヲ征伐ノ事ヒ給フ時所多ノ告ありて
肥ノ國松浦郡平戸ノ嶋ト云所ヨリ得サセ給ヒシ石ハ今筑
ノ國怡土郡深江村八幡宮ノ神体ニ鎮懐石是
なり万葉集建部牛麻呂ノ歌ノ
天地の（阿家部知能）　其（奇）久（伊比）しく云（夏等）　と（許能）　比久志貴多麻志（志ヲ志家）　のしル

良斯母
らしもと読白ハ叶石あり其辛櫂といふ所ハ何なるやと尋ねる人なし或人の説ハ岩崎より一里許ハ山里ハ平篇といふ所里ハ高の山より南白の燧石多く初ハ玉工是を擇て唐土ハ雲南石ハ比すれば見侍りしハ黄しかりしかれハ平櫂多くて彼鎮懐石ハ止まるまる所と云ん方かしかれハ平櫂の郡叶平篇多くて叶長崎ハ古名と同しく深江村といへるもあやしかれ

加長崎新話ハ初ハ新所と大石ハ遊嚢賸記ハ初ハ新所と云ハ新記ハ叶平篇の郡ハ叶長崎ハ筑前国深江ハ其国西境の古郡名鎮懐石ハ因所八幡宮の神殿と仰き奉るといふ大隅賸記

筑前国怡土郡深江村子負原陸海丘上有二石大者長一丈二寸六分圍一丈八寸重十八斤五兩小者一丈一寸圍一丈八寸重十六斤十兩並皆稽圓狀如雞子其美好者不可勝論所謂怪足壁是去深江驛家二十許里近在路頭分新往来莫不下馬跪拜古老相傳曰往者息長足日女命征討新羅國之時用為押著御袖之中為鎮懐所以行人敬拜此石乃作歌曰可既麻久波何志尓可斯故斯

反歌ハ

右事傳言那珂郡伊智郷蓑嶋人建部牛麻呂是也

筑前風土記云

日本紀神功皇后元年九月云

筑前名寄怡土濱淀江村ノ西子負原ノ北ノ海濱ヲイフ云々

神后皇后御腰ニ挿玉ヒシ石二ツ昔此所ニ在シナリ

近代盗人取テ今ハ此原ニハナシ

○スプレーキーウヲールト

人の家職ハ身の為なる業なれバ聲を出し働き〳〵ら

鉄ハ温なる内ニ鍛ふへし事をなすも亦同

小人の交ハ甘キ酒のぬし飲ニ耳かして多く苦し

○ドルニス大王が乗玉ヘル馬ハ九歳ニ出宮シ則梅漆

親君侍從ニ金液死レ死名多ケ在ル也

○拙名物六帖ニ不審ニ下同ジ下男蔵列杜撰此ニ

一 雅俗 正緯 對語ニ雅俗アルヲ別ツ居名ニ非ズ

一 朱語 明孝之ヲ得タリ

一 佳地 如此シ備記ヲ来札ニ下ス

○沙爾那答都邑圖

サルナタハ モレアノ内サコニア國中ノ一縣ナリモレアハギリーケンランドノ南部ニシテ肖出ノ一大州ナリ

○ムツクル

金（カネ）ムツクル　山丹人指来ル

ひえバんのる　四絃の三味せんのようなもの

ドンコリウ

○中風摩擦方　長ス　吊方　右ノ通ニ成ル

散薬摩油方

ラウリール油一匁半　テレビンテーナ四錢

バルサム　ペーリュー　硼砂精　各二錢

右患処ヲ摩スルヿ日ニ二三次

右ノ通リ御出来上

○徽斎秘録　陳九詔　斎藤全書　王太師

○未奥　昂右勅卒　出雨航雜録　和名抄

○柘ヒシヤ、ケ　九州ニテ灰汁柴ト呼フ　土人枝葉ヲ燒キ灰汁ニ出メ物ヲ染ム

○

旅中の詠　左衛門督為定

板白を立ておきて右衛の まが麻〳〵や秋の中山

菅枕こそ[illegible]の妻なれ[illegible]くかまこそ要けるうつの山行
やいもせ〳〵と雲の空なる伝みるクあいやるき妻のふしの根
徒人の旅ゐ夢も大井川ゆくる澄渡き多の白浪
不二の雲ぱる〳〵光の雪さとひとつなる世すの田みの浦浪
のとゆ〳〵水の流も妻の色なる玉も光の落多が京

○日月燈　江海油　風雷鼓　版天地間一大戯場　堯舜旦湯武末　操莽丑　淨古今来　許多脂色

○磬箱萬字印

3473
卍

磐水先生隨筆卷之二十

○十數異言

十數異言附言

一此編ハ諸國ノ數計十言ヲ集テ各州ノ土言方言ヲ緣異ニスルノ一斑ヲ窺ントス余二十年來遠西和蘭ノ医學ニ從事シ頗彼邦語ヲ諳ス彼數計ノ諸言固ヨリコレヲ熟セリ且其書中他ノ諸州釋辭ノ編冊多シ其諸編中羅甸佛郎察等各土數計ノ語ヲ錄スルヲモ亦已ニ見ルヿヲ得昂テ唯其數計十言ノミヲ取リ見ルニ隨テコレヲ抄ス且往年西ノカタ長崎ニ游テ彼蘭船ニ伴ヒ來ル烏鬼(クロンボ)等カ呼フ所ヲ和蘭譯司ヨリ聞錄ス又其

后勢州ノ漂民光太夫カ躬ラ歐羅巴西北方ニ到リ傳
フル所ノ魯西亜ノ数計字言ヲ得タリ彼歐羅巴諸州
皆同文トイヘ其言語ハ各州各土自ラ殊ナリ是此編
ヲ集ルノ挙因テ起ル所ナリ今先ツ数計ノ唐山音ヲ
且諸書ヲ渉猟スルノ際意ヲ住メテ往々漢土ノ書ニ
散見スル所亜細亜四邊ノ諸言ヲ得タリ其文字ヲモ
併セ得ルモノハ其國字國音ヲ傍書スル尋ヒテ叙
邦ノ正音及轉音戯言隱語ニイタリ並ニ蝦夷流求等
ノ屬嶋所呼且從来南方諸地ニ到レル漂客等カ臆記
スル所其轉音セルヤ否ヤヲ知ラサル者ヲモ傳録セリ皆
得ルニ隨ヒ聞ニ任セテ漫録スルモノ已ニ数十國ニ及
ヘリコレ僅ニ十数十字ノ片言隻語トイヘ年月意ヲ
注テ集録スル所ニノ若シ人コレヲ見レバ坐ラニノ四方各
國ノ土音語勢ヲ知ルニ足レリ本是好事ノ一端トイフヘ
シノ其實ハ吾輩譯業ノ家學ニアラサレバ此博聞ヲ得
可ラサル所ナリ此餘亦他ノ大洲中諸國各土ノ方語ヲ
得ルヿアルベシ故ヲ以テ未タ繙写ノ事ニ及ス頃友人
此稿ヲ見テ頻ニ淨写ヲ從通ス因テ姑ク十数異言ト
題ノ一小冊トナスコトニハナリヌ
一諸言多クハ國字片假名ニテ記ス再写ノトキ或ハ其
字ヲ誤写スヘシ唐山音ヲ併サントスレ𪜈未タコヽニ
暇アラズ
○因ニイフ支那ヨリ我國ニ文字ヲ傳ヘテ後漢音呉
音アリコレ彼唐山音ノ轉セルナリ本文ノ一二三ノ

数字ニテ考ヘ知ルヘシ又廣東ハ今全ク支那ニ屬シ
其言辭中一二三ノ數字ノ音ノ如キモ轉セルヿ又
本文ニ錄スルカ如シ此レ是ノ十數異言ニ與カラサ
ルニ似タリトイヘ共語言轉変ノ弊ヲ我門ノ徒弟ニ示
シトノ説ニ漫錄スル所ヲ左ニ附記ス
一茂質按ニ諸國ノ言語音韻ハ同文ノ國々ニテモ其方
域國土ニヨリテ皆相違スルナリ唐音ハ杭州音ヲ
正音トス十三省十五省各州ノ音ハ皆異ナリ故ニ
及弟ニ進ムノ諸生徒等皆其正音ヲ學フナリ假令
ハ我ノ字ハ正音「ゴー」ナリ邊土ノ音ニテハ「ガアト」
イフナリト往年唐音家ニ聞ケリ今ノ唐山ハ韃
音雜リテ別ノ古音ヲ失ヒシナリ漳州音又ワケテ
殊ナリトイフ崎港ニ來ル清商ナトモ世間ニ弘ク
通スル為ニ南京ヲ學フトナリ寛政丙辰六月奥
州本吉郡大室濱ニ漂着セル漢人等ハ廣東所屬
新寧縣大澳港ノ人ナリ文ヲ屬スルハ同シフナレ共
其語音ハ正音ト甚相違スタトヘハ一ヨリ十ニ至
ルノ正音ハ
「一」「二」「三」「四」「五」「六」「七」「八」「九」「十」
イ、ルー スアン スー ウ、ロ チパ キウ シ ナリ
漢人等カ言フ所ニテハ「一」「二」「三」「四」「五」「六」
ゼ ジイ サン シイ ゴーラア
「七」「八」「九」「十」
ゼイ ボツ ガウ ザ
ナリ又北京ヲハアツキヤントイヒ
廣東ジンダントイフノ類ナリコレ

ヲ彼レ白音トイフヨシナリコレヨリ護送メ長崎ニ
イタリ清商ト接話セシメタルニ更ニ言語セサリシト
ナリ因テ顧フニ我邦ニ傳ヘタル漢音呉音トイフモ
彼正音ノ漸ク変シタルナリ中カニ其ノ〻ノ正音モ
アレド假令ハ教字ニテイハバ「イハガ」イチ、イツ」トナリ
「ルー」ガ」ジ、トナリ」ニトナリ」サン」ハソノ〻ニ「スー」ハシ
トナリ「ウハ」ハギヨ、トナリ、ゴ、トナリ「ロ」ハリン、トナリ
ロン、トナリ「シ」ハシツ、トナリ、シチトナリ「パ」ハハツ」トナリ
ハチトナレリ「キウ」ハツノ〻、又ク、トナレリ「ジ」ハシウ、

ジウトナレリ北京ハ「ホクケイ」トナレリ廣東ハ
「コウトウ」ト変シタリコレ等ラ攷フルニ其國ト自癸
ノ土音ニ悟フヨウニ自ラ変スルモノト見ヘタリ又西洋
諸言ハ厄勒西亞羅甸、如德亞ナドイフ國ヨリ起レリ
西洋欧羅巴ノ洲中ハ皆同文ニメ言辞ハ各殊ナリ
和蘭言ナトハ羅甸並ニ其旨國及近國ノ言音ヲ傳
ヘテ自ラ轉変セル多シナトヘハ羅甸名ニテ「テレビン
チイナ」ト称スルモノヲ和蘭ニテハ「テルペンテイン」
ト変シタリ此方ニハコレヲ設リ傳ヘテ「テンメンテイ
ナ」トナレリ又「カムプュラ」龍脳ノ羅甸名ナリ和蘭
ニテハ「カムヘル」トイフ漢土ニハ羯婆羅我邦ニ

傳ヘテハカンプラレトナレリ木乃伊ハ其原亞曜皮
亞語ニテ「ミュミア」トイフ和蘭諸洲ニ傳ヘテ「モミイ」
トナリ「モミーン」トナレリ支那ニ傳ヘテ木乃伊トナ
リ秋　邦ニ傳ヘテ「ミイラ」ト変シタリ支那ニテ訳
スル梵字梵音ハ瓜哇字音ト見ユコレモ支那ニテ
傳訳ノ日大ニ変シタルヿアルヘシ又秋國ニ再傳メ
後ハ其意義ハイカーアルヘキニヤ字音ノ本トハ
又甚タ失ヘルコトナルヘシ　本邦ノ諸言ニテサ
ヘ古今ト各地トニテ其方音ニ轉訛スルモノ挙テ数
フヘカラズ況ンヤ四大洲方域ヲ異ニスル各國ノ諸言ヲ
傳ヘテハ其各國ノ土音ニ協和スルヤウニ自然ニ轉変
スルハ其勢ヒナルヘシ

寛政十一年己未孟夏十一日　磐水平茂質專業ノ閒ヲ
偷ンテ江都櫛蕉ノ芝蘭書齋ニ雜記ス

十數異言

櫛蔭　盤水子輯

皇和

天神御祖詔正哉吾勝勝速日天押穗耳尊授天璽瑞寶十種。所謂瀛都鏡一。邊都鏡一。八握劒一。生玉一。死反玉一。道反玉一。蛇比禮一。蜂比禮一。品物比禮一是也。天神御祖教詔曰。若有痛處者令以十寶謂

一二三四五六七八九十

而布瑠部由良由良止布瑠部。如此為之者死人反

生矣。是則所謂布瑠之言本矣

右出先代舊事本記

巻第三天神本紀

和銅五年正月二十八日 正五位上勲五等大朝臣安萬侯謹上

○田賦集曰古の田券は一段を十に分て其一を丨と記し二を川と記し三を丨七を丌と記し八を丌と記し九を丌と記せり丨は方六間の廣さなり換世は及て丨を一畝川を二畝と號といふ是三百六十歩一段なれば丨は三十六歩川は七十二歩なる歟し餘は是に準ず今按ずるに川丨川八即太古に在て一二三の文字なり後に於て等置の畫とに釋紀大藏省御書中有神代字六七枚許といふとの川乃古とき古の三字なる古と瓊矛伯遺ふ古なるもいかしへ床書契ありもおのの川から經界の記號かくの如くなるべし 今又河内枚岡泡輪神社の藏土筒の鏡ところ天名地鎮といふものなり五音字母なり其字左の如し其讀法は祖舊事大經に出せり

七 人 ヒトハ

丁 含 フクム

匕 道 ミチアリテ

亅 善 ヨキハ

乂 命 イノチ

冂 報 ムクヒ

七 名 ナアリ

亅 親 オヤト

亅 兒 コトハ

亅 倫 トモガラノ

亅 元 モトノ

亅 因 チミアリ

亅 心 コロハ

上 顯 アラハレ

冂 錬 チリ

七 忍 シノベ

匕 君 キミハ

广 主 ルアルシ

冂 豐 ユタカニ

亅 位 ノラヰシ

ソ 臣 ヤツカレハ　ワ 私 ワタクシニ　ス 盗 ヌスミ

タ 田 タカヤシ　ハ 女 ハタウナ　ク 籾 クサキル

ウ 績 ウミ　オ 蔵 オレ　ニ 家 イエハ

リ 理 コトワリハ　ヘ 宜 ムベニ　テ 照 テラセ

ス 進 スヽミ　ア 悪 アシキハ　セ 坟 セメ

ワ 我 ワレヲハ　ケ 刑 ケヅシ

一 ヒ 二 フ 三 ミ 四 ヨ 五 イ 六 モ 七 ナ 八 ヤ 九 コ 十 ト 百 モヽ

ソ 勿 ナシソ　ア 男 アトコハ

メ 女 メハ　カ 蟹 クワニシ

ニ 蒙 ニギハヒ　サ 榮 サカヤカセ

ノ 法 ノリハ　マ 守 マモリ

エ 絶 タエセ　オ 欲 オシミト

ヒ 千 チ　ム 万 万　ヒ 億 オク

ひとつ　ふたつ　みつ　よつ　いつつ　むつ　なつ　やつ　ここのつ　とを

又

ゑい　ゐう　ゐ　ゑ　いつ

ゐ　ゑ　を　や　ゆ　よ

一（イチ）二（ニ）三（サン）四（シ）五（ゴ）六（ロク）七（シチ）八（ハチ）九（ク）十（ジウ）

此ハ漢字ヲ傳ヘシ後ノ彼音ノ轉聲ナルベシ

所謂漢音呉音ナリ前ノ両音音ハ全ク

本邦古来ノ言辭ナルニヤ

馬奴轎夫隱語

一（そく）二（まる）三（やみ）四（だり）五（ごん）六（げんこ）七（さいかん）八（ぐんぢう）九（きうわ）百（いちまんおく）

魚賣人隱語

一（ぼり）二（もうげふ）三（ミナセイリ）四（たり）五（かまん めのど）六（いで）七（さいかん）八（ぐんぢう）九（やうん きうわ）十（ぢうり 百も十も十二 手ごり）

拳戲　唐音ノ轉聲ニ和語ヲ雜ル

一（イツコウ）二（リヤン）三（サンナ）四（スー スムーチ）五（ゴーサイ ムメチ）六（ロノ）七（ゼイ ゼサイチ）八（パノ）九（キウ）十（トウライ）

東都一大刺敎字度詞

一 大無人　二 足無人　三 王無中　四 罪無非　五 音無口
六 交無人　七 切無刀　八 分無刀　九 九無丶　十 千無丿

日本屬嶋暇夷　關文太郎子敬丿　野作雜錄ニ載ス

一 矢泥ポ　二 背トツプ丶ポ　三 列貲ポ　四 伊泥ポ
五 阿矢吉泥　六 伊発武蹩　七 阿兒貲武蹩　八 貲蹩矢
九 矢泥蹩矢　十 速武蹩　廿 朴貲

全　林子平蝦夷記ニ載ス

志ねつぽ　一　ぎつぽ　二　きつぽ　三　い祢つぽ　四
あーつき　五　いわん　六　はるわん　七　ぎ度　八
志ねぎし　九　ゑを　十

同　山丹　關文太郎雜錄ニ出ス

一 奥莫ラモウ　二 捺怛ナンダン　三 茶貲シャツポ　四 越喇阿ヱラカ
五 貲日也ツチヤ　六 有乘ユクウ　七 貲伊ツイ　八 発乘ハリ

九 朴列伊（ホレイ） 十 質哇阿（ツワア） 朱書暇疑双紙

流求 中山傳信録ニ出ツ蓋クハ傳聞ノ失 アランカ

一 低子（ト子） 二 打子（タ子） 三 セ子（ツ子） 四 夭子（ヨツ子） 五 一子子（イツツ子） 六 姍子（ムツ子）

七 納子（ナツ子） 八 呀子（ヤ子） 九 科過碌子（コロツ子） 十 拖低子（ト子）

十 二 膩祖（ジツ） 十 三 摻祖（サンツ） 十 四 細祖（スイツ） 十 五 古祖（クツ） 十 六 六古祖（ロクツ）

十 七 錫汁祖（シジ） 十 八 河汁祖（カジ） 十 九 苦祖（クツ） 百 一 夏古（ヒヤクツ） 千 先（セン） 一千一貫

萬 漫（マン）

按ニ皆和語ヲ傳錄ス別ニ琉言ハナキニヤ

全 薩人所傳

壹貳參肆伍陸捌玖拾阡陌

菽園雜記曰相傳始於國初刑部尚書閑濟 皆取其音同而文畧者易
宋遺寶崑山志已有之
之斯以防磬滅失差之憂

唐山

一 イ、 二 ルー 三 スアン 四 スー 五 ウ、
六 ロ 七 チ 八 パ 九 キウ 十 シ

滿州

出于滿漢同文物名類集。滿文ハ直行左讀ナレハ其一、二字スツ左ノ如ク敷字ノ下ニ記スルハ滿文ニ漢字音ヲ填メタルナリ讀者左讀スベシ

九 屋雅

七 納單

五 孫查

三 一攬

一 厄毋

十 壯

八 渣滾

六 佞姑

四 對因

二 注

敷目類

呑矣哈親

全

ニンクン 尼英鮎恩 六

ナダン 納達阿阿安 七

チャクン 楂軛阿烏恩 八

ウェン 烏鍮恩 九

チュワン 諸斡烏阿安 十

エム 額穆 一

チエ 諸喀烏額 二

イチン 伊琦阿安 三

トイン 鶨衣因 四

スンチャ 鱗恩阿楂 五

朝鮮國語

和漢三才図會

一 ちんか 波年
二 ことる 止乎留
三 そい 曾伊
四 とい 止伊
五 いそ 大曾
六 よそ 與曾
七 ぢるこぶ 知留古布
八 ふとろく 與止呂具
九 あわぶ 阿保布
十 ゑる 惠留
百 いるぐく 以留久婆
千 いるてん 以留天年
万 いるまん 以留末年

朝鮮

壹 일호
貳 이두
參 삼석
肆 스닉
伍 오숫다
陸 뉵숫여
柒 칠곱널
捌 팔둡여
玖 구흡아
拾 십열
百 빅일
千 쳔일

萬 일만

億 일억

清準民治藏書　闕書名　朝鮮諺文字母可參考

朝鮮語

一 하나	二 두	三 석	四 넉
五 다숫	六 여숫	七 닐	八 여덟
九 아홉	十 열	百 온	千 즈믄

万 일만

億 억

右ハ嘉靖年間ノ韓本ニ載スルトコロ即チ支那明ノ世宗ノ頃ニ當ル

一 哈那	二 覩ト二	三 色一	四 餒一
五 打色	六 耶沁	七 你谷	八 那得一
九 阿戶	十 耶二	一百 黑嫩	一千 義謠

一萬 義蛮

右支那ニテ譯スルトコロノモノトハ見エタリ　年代詳ナラズ　何レ近世

一 한나(ハナ)　二 두리(トウル)　三 세(ソイ)　四 데(ドイ)

五 다섯(タソツ)　六 여섯(ヨソツ)　七 일곱(ヒルコブ)　八 여덟(ヤタル)

九 아홉(アホブ)　十 열(エル)　百 백(バク)　千 천(ゼン)

万 만(マン)　億 억(オク)

右近頃ロ譯司ノ譯スルトコロ

按スルニ右ノ語大同小異ニシテ紛〻一ナラズ若シ年代ノ同ジカラザル語モ少シク改革スルヿト見エタリ蓋シ第一條中ノ万ノ字ニ일만又億ノ字ニ억ノ諺文ヲ附スルハ是万億ノ字音ナルベシ

ソイ 四　タソ 五　ヤソ 六

ヅルボー 七　エイタ 八　アホー 九

ヤー 十　百(ホンドル)　千(ドイセント)　和蘭語ニ全シ説アリ

和漢三才図會ニハ百(イルバク)千(イルテン)トアリ

周防濱田海岸漂流朝鮮野人茅所呼十數言也濱田人永田幸澤所臆記也

朱書ハ文化八年辛未夏韓人對州ニ来聘アリシ片千蕃傳ヘ来ル所ナリ百千ノ辞オランダ語ニ同シ甚タ怪ムベシ別ニ愚考アリ

清商私制衣記號數字

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
イツ	ニ	サン	シイ	ゴー	ラア	セイ	ポッ	ガウ	ザ
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
ゼツ	ノー	セイ	ポッ	ゼツ	ジイ	ゼイ	バッ	ガウ	ザ

百 ヘ　千 セン　萬 バン

廣東

廣州府新寧縣大澳港陳世德等寛政八年夏仙臺本吉郡大室濵ニ漂着ス其人〻等所語ヲ傳記スコレ其土音ナリトイフ志村勘右衛門等ニキケルヲ錄ス

一	二	三	四	五
イツ	ニ	サン	シイ	ゴー
一	二	三	八	一
		二十		
		一百		

同漂客讌間為打手拇之戲

志村氏紀聞ニ載ス

一箇拇　二箇拇　三箇拇

四箇(シコ)栂　五箇(ヲコ)栂　六箇(リウコ)栂

七箇(セツコ)栂　八箇(ハツコ)栂　九箇(コウイコ)栂

癈倒(ツイタウ)

布陳世德(ダンスイデ)等所傳トイフ

堅瓠集載委巷叢談市諺曰杭人三百六十行
各有市諺中畧不若吾鄉有文理

一　旦底　二　新工　三　横川　四　側目

五　獻齒丑　六　撤大　七　毛根作皂脚　八　一刷

九　未九　十　田心

薩人隱語ニテ器拳(ケン)ヲ打ツニ一ヲタンツコニヲヨコカワセヲ毛ノシリ九ヲニルイラズトイフハコレヨリ来タルイナルベシトイフ

蒙古嗒爾嗒額諾德等

國方言　兵部督捕理事官張鵬翮奉使俄羅斯日記抄録

一　日勒黑　二　日懷葉勒　三　日姑爾

四 曰德爾百　五 曰他布　六 曰茅爾哈
七 曰多諾　八 曰奶媽　九 曰一素
十 曰阿爾

仝

新刻事物異名國用編　餘姚懶云余庭璧

一 示下　二 舌要兒　三 凡魯班　四 都魯班
五 答奔　六 只魯蠻　七 朶蠻　八 余蠻
九 曳孫　十 合魯班　廿 忍魯　卅 凡莫
四十 獨嗔　五十 答賓　六十 只剌　七十 答剌
八十 乃彥　九十 也連　一百 你千竹　一千 明安
一萬 土滿　萬〻 上土滿

安南

安南譯語、近藤守重曰譯語所載四語

一 沒　二 咍　三 巴　四 奔
五 喃　六 哨　七 擺　八 滲

九 軫(チン)

一百 沒欄(モラン)

一萬 沒們(モメン)

一千 沒印(モイン)

十 萬(マン)

全

明和中常州多阿郡磯原村佐平太等彼地ニ漂着シ臆記スル所恐ハ誤傳ト傳写ノ謬アラン

一 モツ

二 ハイ

三 ハア

四 ボン

五 ナム

六 サボ

七 バイ

八 タン

九 リン

十 モイ

百 モツケン

千 モツチヨク

全

天明七年安南ノ漂客等ヲ阿蘭船ニ駕セテ長崎ニ伴ヒ来ル彼等カ所言

一 モル、ニヨ、

二 ハイ、ニ、

三 ハ、タム、

四 ボル、トウ、

五 ノク、ゴン

六 ロ、ショウ、

七 バイ、ダ、

八 バツ、バム、

九 コウ、テン、

十 モイ、メブ

全

安南ニ漂流セル仙臺ノ源三郎等竟政丁巳政朝ス彼等カ臆記スル所

一 モツ

二 ハイ

三 ハア

四 ボン

五 ナン　六 サヲ　七 ハイ　八 ダム

九 ゼン　十 モノ　百 モツラン　千 モツクワン

阿媽港（アマカワ）

右源三郎等臆記スル所ナリ
阿媽港ハ彼尓杜（ポルトガル）色兒ノ所
有ノ由ナレバ甚邦語ナルニヤ

一 ウン　二 ロヲ　三 チン　四 ジワトロ

五 シンコ　六 サイス　七 サイテ　八 オイト

九 ノメ　十 ナイセ　百 ウレケン　千 ナイセクワン

東埔寨（チヤカン）

一 梅（ムイ）　二 別（ペ）　三 畢（ヒー）　四 般（ペパン）

五 孛監（ポイカン）　六 孛監梅（ポイカンムイ）　七 孛監別（ポイカンペ）

八 孛監畢（ポイカンヒー）　九 孛監般（ポイカンパン）　十 答（タ）

應帝亞（インデア）

和蘭船ニ從テ長崎ニ來ル端（スカルト）嶋（ヨンガ）奴所謂クロボウ言フ所按ニ「ペレイス」言ナリ

七 サツウ　二 ツア　三 テガ　四 アレパ

五 リーニ　六 アンナイン　七 ッウジエ　八 ダラーバン

九 サンビラン　十 サプル　「サ」ハ一ノ「サツウ」ニメ「プル」ハ〇零ノ意ナリ

十一 サプラス　十二 ツアプラス　廿 ツアプル　十三 十四以下ハ「アンパプラス」「テガプル」「アル」

「リーニプラス」ト皆其例ナリ　三十四十ハ

パプル等ナリ

一百 「サリボン」

漂泥

筑前志摩郡唐泊浦伊勢九船寶暦十二年十月奥常ノ堺塩屋岬ニテ難風ニ逢漂泥ヘ漂着シ同船ノ者追テ死亡其中一人孫七トイフモノバタヒア」トイフ処ヨリオランダ船ニ送ラレ明和七年ノ秋阪朝シタリ漂泥ノ内文郎馬神（バンヤウニン）トイフ所ノ言語ヲ覚ヘ来リシ中

一 シヤトウ　二 チア　三 アンハツ　四 脱

五 トニ　六 アンノン又トンヨ　七 ヤツトウ又ハロウ　八 ダラハン又サンヤア

九 サンヒイラン　十 サツポロ

茂質已ニ傳フル所ノシロボウロニ同フノ孫七傳ヘ来ルモノハ多クハ轉聲ト見エルナリ

梵語

梅漢ノ傳ル所瓜哇國字ナリ數計ノ字言モ瓜哇所称ナルカ印度地方甚廣大各土ノ文字言語數種アリトイフ松原氏贈ル所ノ梵文ヲ左ニ錄スコヽニハ其辭ヲ國字ニ錄ス

一 ツキリタ、エイキヤド

二 ニベイ ナビチド

三 タラ、チリドド

四 シヤド、シヤドバリド

五 ハンシヤ

六 欽シヤシタ、又シヤタタ、

七 サツタ、サハタ

八 アシュツタ

九 ダバ、ナバ、ド

十 ダーシヤ

西番譯語 闕名

五 一 治

六 二 思 逆

七 三 遜

八 四 日 ト

九 五 刺

十 六 竹

百 七 敦 ト

千 八 甲 兜 本

萬 九 谷 耳

十 竹 ト

百 甲 兜 本 毘 炭

千 錯 凍 思

萬 刺 樸 克 立

龍威秘書九集 荒外奇書六種第五冊

石門馬俊良嘯山識

一

三

五

七

九

百

二

四

六 廠

八

十

千

万 廠

八十八

九十九

七十七

二十

八十

倶胝此云億
即千萬也

朱書ハ出梵語雑名

天台之慈覚大師
請来本

新編羣書類要事林廣記卷之十

西顛　陳元靚

至元譯語

數目門

一　亦干
二　舌腰兒
三　兀魯班
四　都魯班
五　塔班
六　只魯蛮
七　朶乘
八　奈蛮
九　戌孫
十　合魯班
二十　忽魯
三十　兀真
四十　獨嗄
五十　塔賓
六十　只剌
七十　荅剌
八十　乃顏
九十　也連
一百　你干介
千　則安
萬　土滿
萬萬　土土滿

衛藏圖識蠻語

數目門

衛藏又藏在蜀西南之地也其國專尊崇佛法

一　吉
二　逆
三　桑

四 日ジ
七 頃
十 菊キ
萬 赤ケ

一 勅 甲キャ 杠コン
又曰甲嘛
一分 嗒嗎杠

五 阿ア
八 傑ケ
百 甲キャ
多 忙コン

一 両 杭ガイ
又曰張チャン杠
一輩 座杠

六 竹チク
九 固クウ
千 凍トン
少 濃ノン

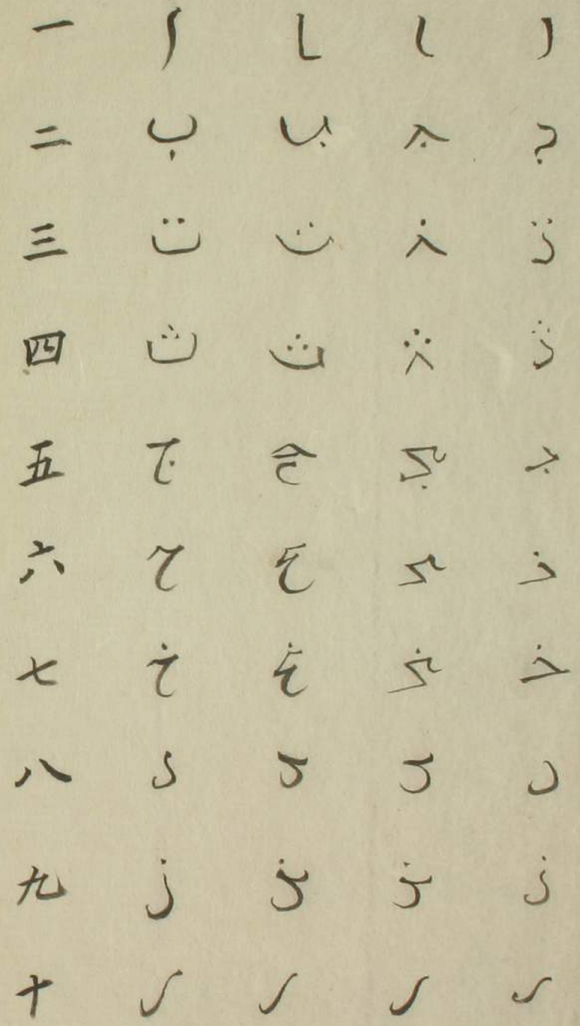
一錢 若ジュ杠

1 Alif アリフ
2 Bâ バア
3 Tâ タア
4 TLâ ザッア
5 DJîm ジイム
6 HHâ シア
7 CHâ クア
8 Dâl ダッル
9 DZâl ザッル
10 Râ ルアッ

麻マ
列レ
乙イ
斯オ

セヲルゲ ヘンリキ ウェルシ
デレ井 所 攫 ミレイセ スプ
ラーカキュンスト」ニ出ス
千七百三十六年ノ印行

自十一
至三十
三数字
見于本
書載萬
國字類



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

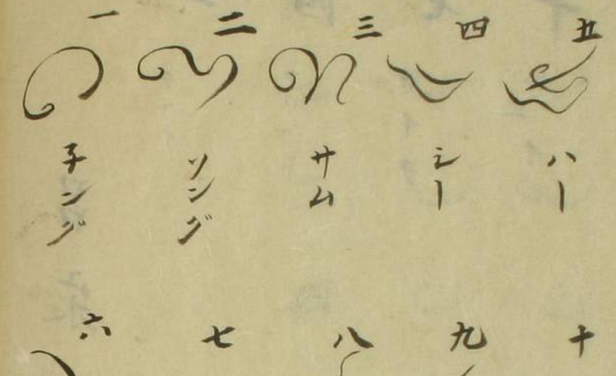
四體

呂宋 一名ルコウニアヌ ヒトツ フタツ ミツ ヨツ イツツ ムツ ナナツ ヤツ ココノツ トヲ

一 ヒトツ　二 トウシ　三 テレシ
四 クワツト　五 サンコ　六 サイシ
七 サイテ　八 オ、チヨ　九 スイヘヱ
十 テヱイシ　百 サントト　千 オンメリ

津輕ノ船頭某等貴改乙卯南島ニ漂着メ二子ラニ到ル留在中臆記セシ所アリ始末別記アリ左子ラ伊斯把佧亜ノ所有ニメ其邦人居住シテ横行ノ書通用トキケバ此奚詰モ斯把佧亞言ナ

Scamse cyfers.



十二 シブ・ソング

二十 Jgu-sib.

三十 サム・シブ

ベンガラ榜葛剌

一 エキ　二 ドウ　三 チエート　四 サート

五 ヤール　六 ハー　七 ダス　八 タレ

九 エンナット　十 アーシブ

ギヤプメ方言

魯西亞ト支那トノ間ニアリ「シメオン・ドロヘイイジエヨ・ゾヨフ」聞書

一 チハヤ　二 ボヨロ　三 ボルボ　四 テルボ

五 クボン　六 コルエ　七 トロ　八 ナイモン

九 ユソ　十 カルホ　百 ソン　千 ミンカ

万 トモシ

ロシア・トキタイ（支那）スコイ・トノ間ニ「ギヤプメ」（ギヤータトイフ）川アリ
トイフ地アリ漢字通用スレド言語異ナリ九ロシア
言ニモアラズ甚土言ノ数量言
ギヤータ川ギヤータ・ヨリ落チテ「ギヤーランメスコイ」
ハルホーツノ地ヲ経テ北海ノ大洋ニ入ルナリ云ヘ
赤人問答ニ出ツ甚地方位等熟考スベシ
赤人問答ハ日魯西亞属州エゾセス　スコトトド
ホリスコイトノ間ハギヤータ川云ヘリ黑川
の傍ある國ハギヤプタといふ魯西亞属州と支那
北疆との間ハ存シテ今ハ魯西亞ハ属ス漢字ハ
通行セルとも言語異ナリ言語オロシアハ
らを其方云自ら別ナリ其十数言ハ

一 ヲハヤ　二 ボヨロ　三 ボルボ　四 テルボ
五 クボン　六 ヒ　七 コルユ　八 メイモン
九 ユソ　十 カルホ
百 ソン　千 ミンカ
万 トモシ

歐邏巴

按此大洲ニ係ル數百ノ諸國其數計ノ字皆同文ニシテ但其音ヲ異ニス其文字ヲ左ニ示ス彼ハ横行此ニハ直行ニ記ス

一 1, 二 2, 三 3 四 4.

五 5, 六 6, 七 7, 八 8.

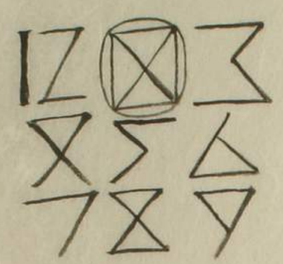
九 9, 十 10, 〇 ハ零點ナリ

按西士勃乙斯曰此數符ノ起原ハ輪影ヲ畫メ四象ヲ作リ手線ヲ分職スルヿ第五十五號六圖ニ示ス

カ如ク ⊠ 是ナリコレ原ト亞剌比亞國ヨリ致メ者ナリ今ヲ距ルヿ大凡一千年前ニ始テ伊斯把尼亞國ヘ傳来シ爾後葉鹿百盧低斯ト云フ人又拂郎察國ヨリ傳来セリコレ紀元第九百九十九年中ナリ

按本一條院長德四年ニメト録セリ又曰哇盧カ漢土ハ宋眞宗咸平三年ナリ烏斯ナル者亜剌比亞人亞鹿バハ地ガ掌記ヲ證メ曰此數符ハ國人ノ製ニハアラズ其本原インヂアヽ子ン印度人ト諳厄利亜國ノオキシホルド.綱ニ收藏スル勞鐸列ヒ利ト書ニ載メリトイヘリ○按ニインヂアヽ子ン.百爾西亞.鷹帝亜等ノ中ナルベシ何某ノ仲ナルニヤ改羅巴洲ニテハ其本亞剌比亜ヨリ傳ヘタル故世人專ラ此教符ハ亜剌比亜ヲ以テ根元ストイフヲ以テ通稱ス ト見エルナリ

第五十五號寫歌噜字計ノ圖



羅甸數量記號ノ字原考證ハ西音発微ニ見エ

按ニハ1.Z.ハ2.3ハ3.X.ハ4.5.ハ5.6ハ6.7ハ7.8ハ8.9ハ9.○ハ○.零ナリ

羅甸數計字體

一 I.	二 II.	三 III.
四 IV.	五 V	六 VI
七 VII.	八 VIII.	九 IX.
十 X.		

羅甸數計字名

一 ユニユス ユニウス UNUS, unius.

二 ジユア DUO.
Duorum
Duarum.

三 テレス TRES.
Tria, Trini
Terni,

四 クワチヲル Quatuor.

五 シユインチユス Queintus,
Quinque,
Quintum

六 セキス SeX,

七 セプテム Septem.

八 オクト Octo,

一 エイ子 eine

eines,

二 テウエン Zwen,

三 デレン Dren,

四 ビール Vier,

Vier,

五 ヒユンフ Funff,

六 セクス Selhs,

九 イーヘム Norem

十 デコ Deni.

Decem.

入 ゼ

亞 ア

尓 ル

瑪 マ

泥 ニ

和蘭ノ宗國一名 オランダドイツ總称

ドイツランドレ

其言辭集成ノ書ヲ和蘭註解セル書ヨリ

抜ス 福知山侯昏ノ コレヲ賜ル

五 ヘイフ Vyf. 九 キーゲン negen,

和蘭

六 ヒス Zes, 十 ティン tien,

七 セイン Zeven,

八 アクト agt,

十 テーン Tehen,

七 シーベン Sieben,

乞ノ字讀ガタシTガ
彼國字ニ書セルヽヲ錄ス和蘭ト字
躰稍異ナルニ似タリ姑ク假字ヲ傍書ス

八 アクト acht,

九 ヌウン Neun

一 エン un. une, 五 シンク Cinq

二 デウキス Deux 六 シキス Six.

三 トロイス Trois, 七 セプト Sept

四 クワトレ Qulore, 八 ホイト Huit

九 Neuf 一 エン Een.

十 ジキス Dix. 拂郎奈 二 テウエー Twee

三 デリー Derie

四 ヒール Vier

エンゲランド語尼利亞

一ワン 二トー 三デ 四オール 五ファイブ 六セックス 七セイト 八セイン 九ナーゲン 十テン

漢人利亞

一オジン	六セイシ	一ア	a. an
二デフ	七セイジ	二トウラ	Two.
三テリー	八オーセミ		
四チヤテーラ	九ゼイベン	三テレー	Three.
五ピアーテ	十ゼイセツ	四オウル	Four.

魯西亞

印度斯箇皮亞漂民光太夫所傳

五ヒヘ	Five,	九ニチ	Nine,
六シキオ	Six.	十テン	Ten,
七セーン	Seven,		
八エイト	Eight.		

十九 Arb. Sissimat.

一 アッタウセ Attause

二十 Arbtellimat.

二 マルルック Marluc.

二十一 ugna,

三 ピングシュット Pingasut.

四 シンシマット Sinssimat,

十九 テッリマット Tellimat

九 コッリニッルット Kollinilloet.

六 アルボネック Arbonec.

十 コッリット Kollit.

七 アルレック Arlech

arbonecma

luc.

八 アルボネック Arbonec.

pingsut.

獨逸ルーウンランド

兒

狼

德

和蘭人譯定スル所ノ彼地方國志ニ出ツ

補

三十 30. Triginta

四十 40 Quadraginta,

五十 50. Quinquaginta,

六十 60. Sexaginta,

七十 70 Septuaginta,

八十 80. Octoginta,

九十 90. Nonaginta,

百 100. Centum,

千 1000. Mille,

十一 11. Undecim,

十二 12 Duodecim,

十三 13. Tredecim,

十四 14. Quatuordecim

十五 15 Quindecim

十六 16. Sexdecim,

十七 17. Septemdecim,

十八 18 Duodeviceni,

十九 19. Indeveceni,

二十 20. Viginti,

羅甸

羅甸十一以下數字ノ名二十ニ至リ又三十ヨリ百千ニイタル

十一 Arkanget.

十二 Arkanget martuc

十三 Arkanget pingasut,

十四 Arkanget sissimat.

十五 Arkanget lellimat

十六 Aibasanget

十七 Arb. malluc.

十八 Arb. pingasut.

ポルトギス portugeel.

波兒杜加爾

一 aenga. ウヲーナ
二 Doos. ドース
三 trees. テレース
四 Kater カートル
五 Sienkoe シエンコエ
六 Ses. セス
七 Settie. セーヘン
八 ooytie ヨート
九 nöbie. ヲーレン
十 Tës. テレン
百 oen Centa. ウヘンセンタ
千 oen miel. ウヘンミール
万 Tës miel. テエスミール

王國

「アルチキーン」又「アルチシツリエス」

黑海ト北高海トノ間ニアル國其都府「メリテヰン」又「イスニリテン」トイフ

一 ヨウツフ
二 ダワ
三 アルテア
四 デ、シエパル
五 ホンツ
六 アツカツ
七 アフト
八 アスト
九 ハツラスト
十 デスト

「モルトフセ」

一 ユケ
二 カフタ
三 コルヘ
四 シレ

一名「モルドインセ」

五 ヘテ
九 ベイクサ
六 コタ
十 ケヘ
七 シセム
八 ベイクサ

「ラミユツ」

一 オミユル
五 トンガン
九 イヽギン
二 ジユジユル
六 ノイギユン
十 ジーアン
三 イラン
七 ナダン
四 ダガン
八 ジアブカン

「ゲヲルゲカーシ」

一 エルチ
五 キエチ
九 ゼカラ
二 オルチ
六 エウキシ
十 アチ
三 サシ
七 シエチ
四 オトシ
八 リヒ

又 イベリス 國土ノ方位ヲ写脱ス

ヘリュドセ 全

一 Satoe サツー
二 Doea, ツア
三 tiga チガ
四 ampat アムパト

lanWaart in,

亞弗利加洲

喜望峰 カープ チル ゲーチホーペ

Dat deze Woorde,
hunne Verscheidelei
getallen (na dat,
Zij diep in 't land,
of Welaan 't
Kasteel Wooren)
eel derliken:

一 maninje ニニンエ

二 mabele ニビエー

三 matato ニタト

四 mane van seine ニチハン セイチ

五 Sima サツー

六 anam アナム

七 taejoe ターユー

八 Dalapa ダラパレ

九 Sambli lang サムブリラング

十 Spoeloe サプール

百 Saratoes サラツー大

千 Sariboe サリブー

万 Sapoeloe.

又 Salaxa,

サブロウ

又

サラクサ

aant kavel,

五 Koiroi. 又 コウロウ. コー koo,

一 kacrui カクイ

六 nanni, ナンニ

二 kham カハム

七 horinke 又 ホウンケ. ホンキュ honkie,

三 Nona, kauno 又 ノナ. カウノ

八 khessi, ケッシ.

四 hoka, hokkia, 又 ホカ ホッカ

九 peto ペト

五 meslana メスラナ

十 Chiime, シユミ

六 meslandato,

十一 Chieemi mabile シユミニビエレ.

七 nojnse ノインエ.

八 ulnane ユルナネ

九 gressi, kressi
ヌケッシ

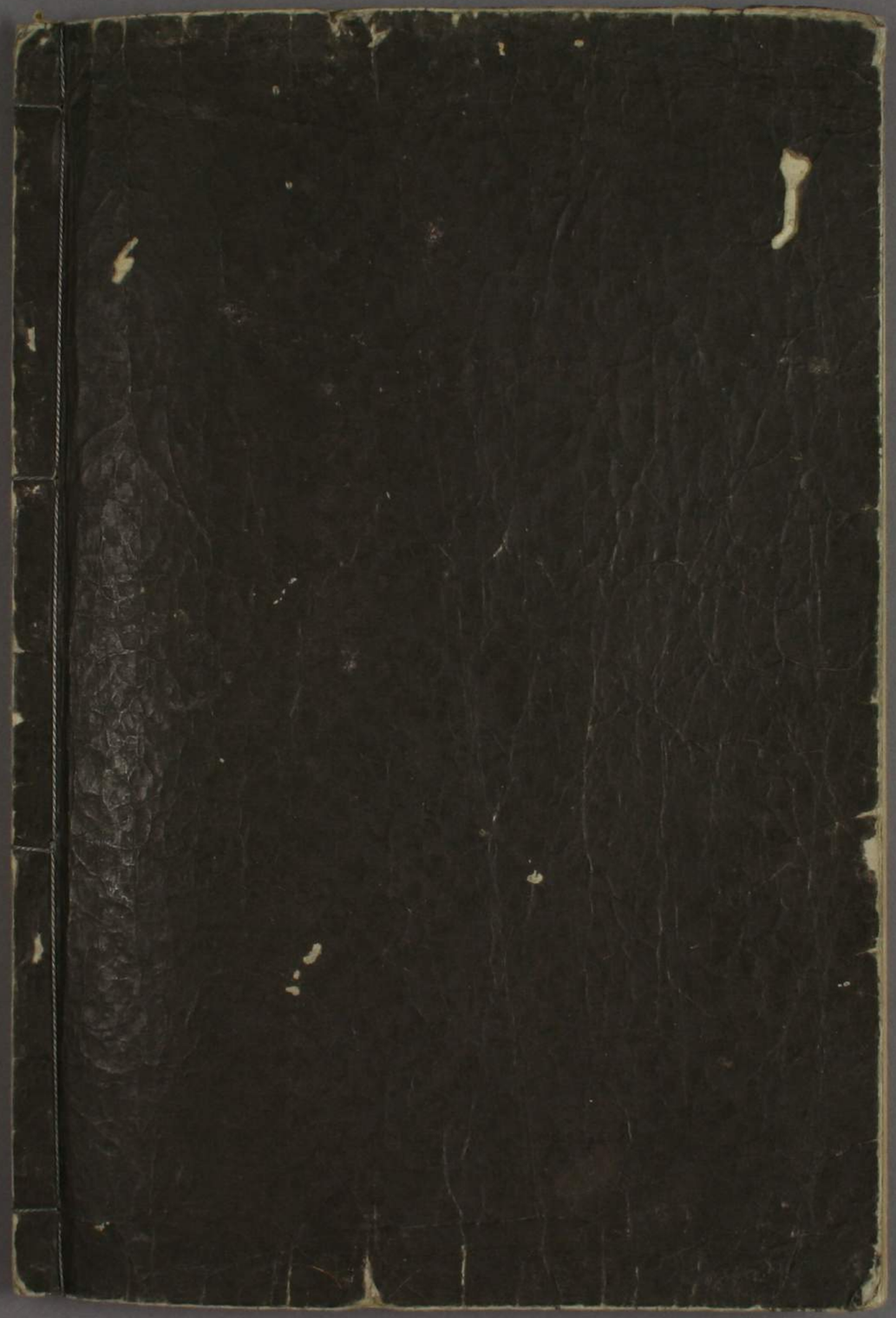
十 gjssi, gessi, gissi
ヌギッシ

十一 khamgissi,
カムギッシ

ヤロフエ Jalofie,

一 ベン
二 エ井アシ
三 エ井ト
四 エ井アチト
五 グエロム.
六 グエロムベシ
七 グエロムエ井アレ.
八 ゴエロム エ井ト

九 エ井アント.
十 ヒュック.

シュリセ Sulose

一 ゴト
二 ジデ井
三 タテ井
四 ナイエ
五 グイーヘ
六 グイーゴー.
七 グイージデ井
八 グイー タテ井
九 グイーナア井.
十 サッポ